

# 1年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	はるが きた 2時間(話・聞②) ◎互いの話に関心をもつことができる。(思・判・表A(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活(生活科)	1~2	1 P0-3の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話したりする。 3 P8を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)オ) 【態】進んで友達の話に関心もち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
4月	さあ はじめよう おはなし ききたいな 2時間(読②) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	1 2	1 教科書の絵を見て、読み聞かせをしてもらった体験を想起し、自分の好きな本を發表する。 2 教科書で紹介されている本の読み聞かせを開き、感想を發表する。 3 教師の選んだ本や、読んでもらいたい作品を選んで、読んでもらう。 4 読み聞かせを聞いて、本や作品の内容について感想を發表する。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
	なんて いおうかな 2時間(話・聞②) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通言葉との違いに気づいて使うことができる。(知・技(1)キ) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材(道徳)	1~2	1 P12-13の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。 2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、發表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。	【知・技】丁寧な言葉と普通言葉との違いに気づいて使っている。(1)キ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【態】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
	かく こと たのしいな 1時間(知・技①) ◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。(知・技(3)ウ) ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢や鉛筆の持ち方(書写)	1	1 P14の唱え歌を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知る。 2 P15の唱え歌を唱えながら、正しい姿勢を知る。 3 正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけてP14-15の挿絵をなぞる。 4 一画の平仮名「く」「つ」を書く。 5 ワークシートを使って練習する。	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。(3)ウ) 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけてようとしている。
	どうぞ よろしく 3時間(話・聞②、書①) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○経験したことから書くことを見つければ、伝えたい事柄を明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ・丁寧な言葉と普通言葉との違いに気づいて使うことができる。(知・技(1)キ) ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材(生活科) ☆好きなものの絵を描く活動(図画工作)	1 2 3	1 P16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。 2 「い・ち」と組や自分の名前を平仮名で書く。 ・姿勢や筆記具の持ち方を唱え歌で確認しながらP17に自分の名前を書く。 ・分からない文字は、教師にきく。 3 名前カードを書く。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。(好きなものの絵等を描いてもよい。) 4 名前カードを見せ合い、交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさん友達と交流する。	【知・技】丁寧な言葉と普通言葉との違いに気づいて使っている。(1)キ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【態】「書くこと」において、経験したことから書くことを見つければ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな もの みつけたよ 2時間(話・聞②) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通言葉との違いに気づいて使うことができる。(知・技(1)キ) ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検(生活科)	1~2	1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。 2 絵を使って、自分で見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。	【知・技】丁寧な言葉と普通言葉との違いに気づいて使っている。(1)キ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
	うたに あわせて あいうえお 2時間(知・技②) ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材(音楽)	1 2 3	1 P20-21のあいうえおのうたを、いろいろな方法で音読する。 ・姿勢、口形、発声、リズム等に気をつける。 ・全員、グループ等いろいろな形態で読む。 ・体を動かしたり、手でリズムをとったりして読む。 2 P22-23の「あ、い、う、え、お」の文字を指でなぞる。 ・青い部分が一目目であることに気をつける。 ・P22-23のマス目に、筆順に気をつけて「あ、い、う、え、お」を書く。 3 これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
5月	ことばの、たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 こえに だして よもう 1時間(読①)	1	1 詩を声に出して読む。 ・声の大きさやリズムを工夫してはつきりと読む。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気づいて音読している。(1)ク)

	<p>◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。  (思・判・表C(1)イ)  ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)  ■詩を音読する。  ■想像を広げながら詩を読む。</p>		<p>2 朝日や海の様子について、想像したことを話す。  3 言葉の響きやリズムに気をつけながら、暗唱する。</p>	<p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)  【能】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。</p>
	<p>よく きいて、はなそう  2時間(話・聞②)  ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)  ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)  ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)  ■応答したり、感想を伝えたりする。</p>	1~2	<p>1 P26-27を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を知る。  2 友達とべつになり、好きな遊びについて聞く。  ・P27の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。  3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。  4 聞き手と話し手を交代して、2の活動をする。  5 教師と活動の振り返りをする。</p>	<p>【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)  【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。(A(1)ウ)  ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)  【能】興味をもって進んで友達の話聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。</p>
	<p>ことばを さがそう  2時間(知・技②)  ◎音節と文字との関係に気づくことができる。(知・技(1)イ)  ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)  ■言葉集めをする。</p>	1~2	<p>1 P28を見て、「あ」で始まる言葉はいろいろあることを知る。  ・手を打ちながら1音節1文字であることに気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。  ・「あ」で始まる教科書以外の言葉集めをする。  2 「い」「う」「え」「お」など、既習の平仮名で始まる言葉集めをする。  ・手を打ちながら、文字数を意識する。  ・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。</p>	<p>【知・技】音節と文字との関係に気づいている。(1)イ)  ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)  【能】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。</p>
5月	<p>はなの みち  6時間(読③)  ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)  ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)  ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ)  ■想像を広げながら物語を読む。  ■物語の音読をする。  ☆動物や自然に親しむことに関わる題材(道徳)  ☆植物の種をまき育てることに関わる題材(生活科)</p>	1 2~5 6	<p>1 教科書の挿絵を手がかりに、場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。  2 教師の範読を聞いて、内容の大体を知る。  ・教師の後について全文を音読する。  3 お話の内容を確かめながら、場面の様子や「くまさん」の行動について考える。  ・挿絵と本文を対応させながら、登場人物の行動や様子を考える。  ・挿絵のワークシートにぬり絵をしながら、季節に気づいたり場面の様子について想像を広げたりする。  4 好きな挿絵の場面を選んで音読する。  ・二人組で音読を聞き合い、感想を伝え合う。</p>	<p>【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ)  ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)  【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)  【能】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。</p>
5月	<p>とよかんへ いこう  2時間(知・技②)  ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)  ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。  ☆好きな本を見つけたら、司書の方にきいたりする活動(図書館活用)</p>	1~2	<p>1 学校図書館へ行く。  ・図書館巡りをして、図書館の様子を知る。  ・たくさんの本があることに気づく。  2 学校図書館での決まりについて考える。  ・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに読むこと等の約束を知る。  3 読みたい本を選んで、読書に親しむ。</p>	<p>【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)  【能】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。</p>
5月	<p>かきと かぎ  2時間(知・技②)  ◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ)  ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p>	1~2	<p>1 P40の唱え歌を、いろいろな言い方で楽しく読み、濁音に気づく。  2 P41にある単語を、一語一語唱えながら濁音の有無を確認する。  ・清音と濁音の平仮名をノートに書く。  3 濁音を含む単語を見つけてノートに書く。  4 短い唱え歌を作って、まとめをする。</p>	<p>【知・技】平仮名を読み、書いている。(1)ウ)  【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)  【能】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。</p>
5月	<p>ぶんをつくろう  4時間(書④)  ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)  ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)  ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)  ■主語と述語を意識して文を書く。</p>	1~2 3~4	<p>1 P42の挿絵を見ながら、二つの文を読む。  ・主語と述語に注意し、「——が——。」「——は——。」の文型であることに気づく。  ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。  2 P43の挿絵を見て、「——が——。」「——は——。」の文で表し、ノートに書く。  3 日常生活から、「——が——。」の文をノートに書く。</p>	<p>【知・技】句点の打ち方を理解して文の中で使っている。(1)ウ)  ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)  【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)  【能】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。</p>
5月	<p>ねこと ねっこ  2時間(書②)  ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)  ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)  ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。</p>	1 2	<p>1 P44の唱え歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。  2 P45を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。  3 P45を見て、促音のある言葉とない言葉を比べながらノートに書く。  4 促音や濁音のある言葉と助詞「を」を使って、簡単な文を書く。</p>	<p>【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。(1)ウ)  【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)  【能】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。</p>
6月	<p>わけを はなそう  2時間(話・聞②)  ◎相手に伝えるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)  ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあること</p>	1	<p>1 質問に対して、答えとその理由を伝える言い方を確認する。  ・P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。  2 P47の挿絵を見ながら、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。</p>	<p>【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)  【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで伝える。(A(1)ア)</p>

	<p>に気づくことができる。(知・技(1)ア)  ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)  ■自分の考えとそのわけを話す。  ☆わけを説明する題材(生活科・算数)</p>	2	3	<p>小学校の生活等で好きなことや楽しみなことを、学んだ話型を使って話す。  ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)  【能】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。</p>
6月	<p><b>おばさん おばあさん</b>  2時間(書②)  ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)  ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)  ■長音のある言葉を使って文を書く。</p>	1	1	<p>P48の唱歌をリズムに気をつけて読む。  ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。</p>	<p>【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。(1)ウ)  【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)  【能】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。</p>
2	2	2	<p>P49の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。  3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。  4 長音のある言葉を使って文を書く。  ・「――へ――。」という助詞「へ」を使った文を書く。</p>		
6月	<p><b>あいうえおで あそぼう</b>  3時間(知・技③)  ◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ)  ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)  ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ)  ■言葉遊び歌を楽しむ。</p>	1	1	<p>P50-51の言葉遊び歌を読む。  ・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。  ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。</p>	<p>【知・技】  ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ)  ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ)  ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ)  【能】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。</p>
2	2	2	<p>自分たちで「あいうえおで あそぼう」を作る。  ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を参考にして好きな行を作り、発表し合って楽しむ。</p>		
3	3	3	<p>P52-53の五十音表を読む。  ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。  ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさとで読んだりする。  ・P52-53の「しりとり」を参考にし、しりとり遊びを楽しむ。</p>		
6月	<p><b>つぼみ</b>  8時間(知・技②、読⑥)  ○事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)  ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)  ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)  ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)  ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。  ☆動植物や自然に親しむ題材(道徳)  ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動(図書館活用)</p>	1	1	<p>学習の見通しをもつ。  ・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。  ・P54の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。  ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。</p>	<p>【知・技】  ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)  ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)  【思・判・表】  ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)  ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)  【能】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。</p>
2~6	2~6	2	<p>全文を読み、内容の大体を捉える。  ・本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。  ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。  ・「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。</p>		
7~8	7~8	3	<p>いちばん興味をもったつぼみについて、わけとともに伝え合う。  4 学習を振り返る。</p>		
6月	<p><b>おもちゃとおもち</b>  2時間(書②)  ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)  ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)  ■拗音のある言葉を使って文を書く。</p>	1	1	<p>P62の唱歌をリズムに気をつけて読み、「おもちゃ」と「おもち」の言葉の違いに気づく。</p>	
2	2	2	<p>P63の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。  3 拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり、友達と交流したりする。  4 拗音のある言葉を使って文を書く。  ・語と語の続き方に気をつけて文を書く。</p>		
6月	<p><b>おおきく なった</b>  4時間(書④)  ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア)  ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)  ■観察したことを記録する文を書く。  ☆植物を観察する活動(生活科)  ☆観察時に写真を撮影(ICT活用)</p>	1	1	<p>学習の見通しをもつ。  ・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認する。</p>	<p>【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ)  【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア)  【能】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。</p>
2~3	2~3	2	<p>どんな観点で観察したかを出し合う。  ・出し合ったものとP64の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。</p>		
4	4	3	<p>観察記録の書き方を知る。  ・P64-65の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つめる。  4 観察記録を書く。  ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。  ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。  ・P124を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習にもいかす。</p>		
4	4	4	<p>書いたものを友達と交流する。  ・交流しながら、友達との観点や書き方との共通点・相違点に気づく。  6 学習を振り返る。  ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめ</p>		
6月	<p><b>おおきな かぶ</b>  6時間(読⑥)  ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)  ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)  ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)  ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)  ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。  ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材(道徳)</p>	1~3	1	<p>学習の見通しをもつ。  ・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。  ・P76-77を見て、これからの学習に意欲をもつ。  ・教師の後について全文を音読する。</p>	<p>【知・技】  ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)  ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)  【思・判・表】  ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)  ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)  【能】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。</p>
2	2	2	<p>お話の設定と展開を捉える。  ・登場人物と増えていく順序を確かめる。  ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読む。  ・繰り返しのおもしろさやリズムを楽しんで音読する。</p>		
4	4	3	<p>グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。  ・動作やせりふを考えて楽しむ。</p>		

	☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	5 6	4 登場人物になりきって劇遊びをする。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 5 音読や劇の発表をする。 6 学習の振り返りをする。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。	
7月	はをへを つかおう 3時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	1 2 3	1 P78の唱歌を、リズムに気をつけて読む。 ・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。 2 唱歌を複写する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方に注意する。 3 P79の文型に合わせて文を作り、発表し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
7月	すきな こと、なかに 7時間（話・聞③、書④） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ■「好きなこと」を紹介する。 ☆好きなことを知らせる活動（生活科）	1～3 4～6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・教科書を見て、「すきなことをともしょうかしよう」という学習課題を確認する。 2 好きなことを、グループの友達に紹介する。 ・いけばん好きなことを選んで紹介の準備をする。 ・聞いたことについて、感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと、好きなことが相手によく伝わることに気づく。 4～6 自分が好きなこととその理由を書く。 ・P82の作例を視写して、名前の書き方や始まりを1字下げた書くことを知る。 ・視写したものを参考にして、2文で書く。 ・主語と述語の関係や、句読点の打ち方、理由の書き表し方に注意する。 7 4 書いた文章を友達と読み合っ、感想を交流する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
7月	おむすび ころりん 5時間（読③） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	1～3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに学んだ音読について、おもしろかったところを発表する。 ・「おきな かつぶ」での音読や劇遊びを思い出して、音読発表会をすることを。 2 全文について、教師の範読を聞く。 ・内容の感想を発表する。 ・繰り返しや言葉のリズム（七五調）に気づく。 3 お話の内容を捉える。 ・全体で音読練習をする。 ・挿絵を基に、場面の様子や「おじいさん」の行動を読む。 4 グループで音読の練習をする。 ・役割を決めて、役になりきって音読する。 ・音読に合わせて動作をつけて楽しんで演じる。 5 音読発表会を開く。 6 学習を振り返る。 ・他のグループの読み方でよかったところを伝えたり、自分たちのグループを振り返ったりする。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
7月	こんな ことが あったよ 6時間（書⑥） ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■出来事や経験を報告する文章を書く。	1～2 3～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・最近楽しかったことを思い出して発表し合う。 ・P92-93を見て、「たのしかったことを、ぶんしょうにかいてよみあおう」という学習課題を確認する。 2 P92の絵日記を参考に、書き方を知る。 ・文章に書く内容（したこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと）を確認する。 3 経験したことを知らせる文章を書く。 ・伝えたい経験について、詳しく思い出す。 ・経験したことを絵に描く。 ・「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」等が分かるようにするとよいことを知る。 4 書いたものを読み合い、感想を交流する。 5 学習を振り返る。 ・自分の経験を文章で表し、友達に紹介したことを確認する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ） 【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書くようとしている。
7月	としゃかんと なかよし 2時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたら、司書の方にきいたりする活動（図書館活用）	1～2	1 図書館に行って、読みたい本を見つける。 ・読みたい本の見つけ方を知る。（表紙や題名や本の中身を見る、司書の先生にきく等） 2 読みたい本を選んで読む。 ・おもしろいところや心に残るところを見つけながら読む。 3 本を読み終わったら、P95を参考にして、読書記録をつける。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぶようとしている。
9月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 こえを あわせて よもう 2時間（読②） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■読みあそび	1 2 3	1 詩を声に出して読む。 ・リズムを感じながら元気に読む。 ・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて読む。 2 詩の様子を想像したり、音読して気づいたりしたことを話し合う。 3 工夫して音読する。 ・内容から想像したり感じたりしたことを、自分なりの読み方で読んで音読を楽	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。

<p>★好きな詩を探して読む活動の継続（図書館活用）</p> <p><b>みんなに しらせよう</b> 2時間（話・聞②） ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有（ICT活用）</p>	1	<p>4 指導書付録CDを聞き、「いちねんせい の うた」を歌う。</p> <p>1 P98を見て、夏休みの経験や話す際の具体的なイメージをもつ。 ・夏休みの出来事を思い出して題材を決める。 2 知らせたいことの内容を考える。 ・P98を参考に、内容や話し方を考えて練習する。 ・視覚に訴えられるよう、写真や絵を用意してもよい。</p> <p>2 4 発表のしかたを知る。 ・みんなが聞きやすい話し方（声の大きさや速さ）を考える。 ・P98の挿絵を参考に、集中して聞くことを確かめる。</p> <p>5 夏休みの経験を発表して聞き合う。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・友達が知らせたい内容を聞き取り、質問や感想を伝える。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ） 【態】積極的に友達の話を読み、これまでの学習をいかして質問や感想を述べようとしている。</p>
<p><b>ことばを みつけよう</b> 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■みんなで言葉遊びをする。</p>	1	<p>1 P100-101の表を見て、縦、横、斜めに隠れている言葉を見つける。 ・見つけた言葉をノートに書き、発表する。</p> <p>2 自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。</p>	<p>【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。</p>
<p>9月 <b>おはなしを たのしもう やくそく</b> 8時間（読③） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材（道徳）</p>	1	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・「やくそく」という題名から、連想することや自分の経験等を出し合って、お話しに関心をもつ。 ・「おはなしのすきなところをみつめて、こえにだしてよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 教師の範読を聞いて、感想を発表する。</p> <p>3 教材文を読み、内容を捉える。 ・題名と作者、登場人物を確認する。（P109で「さくしゃ」という言葉を知る。） ・登場人物の言動を押さえながら、お話の展開を整理する。</p> <p>4 グループで場面を選んで、音読する。 ・音読したい場面を選ぶ。 ・場面の様子を想像し、3匹の「あおむし」や「木」になりきって役割読みをする。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。</p>
<p>9月 <b>かたかなを みつけよう</b> 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、語らざり書きをする。</p>	1	<p>1 片仮名を書く。 ・P110の唱歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。</p> <p>2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。 ・探した言葉を、長音、拗音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。</p>	<p>【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。</p>
<p>9月 <b>よんで たしかめよう うみの かくれんぼ</b> 8時間（読③） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）</p>	1~2	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさん生き物がいることを経験や知識に基づいて話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 教材文を読む。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。 ・3種類の海の生き物が出てくることを確かめる。</p> <p>3 生き物の隠れる場所と隠れる方法を確かめる。 ・1文目に海の生き物とその隠れ場所、2文目に体の仕組みや機能、3文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。</p> <p>4 P117の図鑑や科学読み物等から、他の生き物の隠れ方を調べて友達と交流する。 ・興味をもった生き物について「1なが、どこに 2かくれるためのからのつくり 3かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしなが、友達と交流する。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） 【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。</p>
<p>9月 <b>かずと かんじ</b> 4時間（知・技②、書②） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ）</p>	1~3	<p>1 教科書の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。</p> <p>2 数を表す漢字を練習する。 ・読み方が複数あることを知る。</p> <p>3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。</p>	<p>【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>口いソノ ■教え歌を書く。</p>	4	4 P120-121を参考に、折り紙、鉛筆、車などの教え歌を作って友達と読み合う。	
10月	<p>おもいうかべながら よもう くじらぐも 8時間(知・技①、読⑦) ◎かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。</p>	1~2 3~6 7~8	<p>1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ(「」)を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。</p>
10月	<p>まちがいを なおそう 2時間(書②) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを直すことができる。(思・判・表B(1)エ) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(知・技(1)ウ) ■正しい表記で文章を書く。</p>	1~2	<p>1 これまでの学習を振り返る。 ・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを振り返る。 2 文章の中から表記の間違いを見つけて直す。 ・P19の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。</p>	<p>【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。(B(1)エ) 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。</p>
10月	<p>くわしく かこう しらせたいな、見せたいな 10時間(書⑩) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動物の観察記録文を書く活動(生活科) ☆知らせたい対象を端末で撮影(ICT活用)</p>	1 2~3 4~8 9~10	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・P20を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いへのひに知らせる文しよをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいものを考える。 2 家の人に知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 3 見つけた事柄を文章に書く。 ・P21のカードとP22の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 4 文章を声に出して読み返す。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 5 書いた文章を読んでもらう。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人に読んでもらった感想をまとめ 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。(B(1)ウ) 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。</p>
10月	<p>かん字の はなし 6時間(知・技③、書③) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■漢字を使った短文を書く。</p>	1~2 3~4 5~6	<p>1 教科書を読み、漢字の成り立ちを知る。 ・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知る。 2 教材文に出ている漢字の書き方を学び、書き順や字形に気をつけて練習する。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 3 例文にある絵を漢字に直し、ノートに視写する。 4 学習した漢字を使って、短文を作る。 ・作った文を友達と読み合い、交流する。 ・互いに読み合い、漢字や文の書き方に間違いがないかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・漢字の成り立ちについて知ったことを振り返る。</p>	<p>【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。</p>
10月 ～	<p>ことばを たのしもう 2時間(知・技②) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩や早口言葉を楽しむ。 ☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動(図書館活用)</p>	1 2	<p>1 濁音・半濁音・促音・撥音の入った詩のおもしろさを味わいながら声に出して読 2 早口言葉を調子よく、正確に唱える。 3 他にもおもしろい発音の詩などを探して、声に出して読み合う。</p>	<p>【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。</p>
11月	せつめいする 文しよを よもう			

	<p>じどう車くらべ 7時間 (読⑦)</p> <p>◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。</p>	<p>1</p> <p>1 学習の見通しをもつ。 ・P30の挿絵を見て、それぞれの車がどんな仕事をするのか、そのためにどんなつくりになっているのか、考えを出し合う。 ・「いろいろな車のしごととつくりがどんなふうになろうか」という学習課題を確認する。</p> <p>2~5</p> <p>2 教材文を読む。 ・文章全体の構造を捉える。(問いと答えの形式・三つの事例を挙げて説明) ・各事例の「しごと」と「つくり」を見分け、二つの事柄の順序や、「そのため」でつながっていることを押さえる。 ・事例を比べ、車の「つくり」は、「しごと」によって変わることを押さえる。</p> <p>6</p> <p>3 説明のしかたについて確かめる。 ・身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。</p> <p>7</p> <p>4 はしご車の「しごと」とそのための「つくり」についてまとめる。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)</p> <p>・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)</p> <p>【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかしたいことを見つけようとしている。</p>
11月	<p>せつめいする 文しょうを かこう じどう車ずかんをつくらう 5時間 (書⑤)</p> <p>◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>■「じどう車しょうかいカード」を書く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動(図書館活用)</p>	<p>1</p> <p>1 学習の見通しをもつ。 ・教材「じどう車くらべ」の学びを思い出す。 ・一人一人が「じどう車しょうかいカード」を書き、「クラスでまとめて、じどう車ずかんをつくらう」という学習課題を確認する。</p> <p>2~4</p> <p>2 「じどう車しょうかいカード」を作る。 ・図鑑などで知った自動車の中から紹介したい自動車を選ぶ。 ・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書く。 ・カードに文章を消書きし、できたら、挿絵用の絵や写真のコピーを添える。</p> <p>5</p> <p>3 カードを交換して読み合う。 ・友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番でページに並べるか話し合う。</p> <p>4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。</p>
11月	<p>かたかなを かこう 2時間 (知・技①、書①)</p> <p>◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。</p>	<p>1~2</p> <p>1 身近なものの中で、片仮名で表記する語を出し合う。 2 教科書にある片仮名で書く言葉をノートに書く。 ・片仮名の長音・促音・拗音の表し方を確認する。 3 片仮名で書く言葉を集め、短文を作る。</p> <p>4 作った短文を友達と交流する。</p>	<p>【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。</p>
11月	<p>ともだちと はなして、おはなしを かこう どんな おはなしができるかな 6時間 (話・聞②、書④)</p> <p>◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>■友達と話したことを基にして物語を作る。</p>	<p>1</p> <p>1 学習の見通しをもつ。 ・「どうぶつになつたつもりでともだちとはなして、おはなしをつくらう」という学習課題を確認する。</p> <p>2~3</p> <p>2 P40-41の挿絵を参考に、登場人物を決める。 3 友達と役割を決めて、動物になつたつもりで話をする。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話聞くときに気をつけることを確認する。</p> <p>4~5</p> <p>4 友達と話したことを基に、お話を考えて文にする。 ・P42を参考に、友達と話したことを会話の形にする。 ・書いたお話を読み返す。</p> <p>6</p> <p>5 書いたお話を読み合い、感想を交流する。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)</p> <p>・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)</p> <p>【態】物語を完成させるという見直しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。</p>
11月 ~ 12月	<p>すきなところを見つけよう たぬきの 糸車 8時間 (読⑧)</p> <p>◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。</p>	<p>1</p> <p>1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引き。 ・挿絵を手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのりゆうをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2~6</p> <p>2 場面ごとに様子を思い浮かべる。 ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作をしてみる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。</p> <p>7~8</p> <p>3 好きなところとそのわけを友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。</p>
12月	<p>日づけと よう日 3時間 (知・技①、書②)</p> <p>◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	<p>1</p> <p>1 日付歌を唱える。 ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。</p>	<p>【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p>

	○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■唱え歌を作る。	2	2 曜日歌を唱える。 ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分で唱え歌を作ろうとしている。
12月	てがみを かこう てがみで しらせよう 6時間 (書⑥) ◎丁寧な言葉と普通な言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■伝えたいことを手紙に書く。 ☆お世話になった人に手紙を書く活動(生活科)	1 2 3~5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」という学習課題を確認する。 2 誰にどんなことを知らせたいか考える。 ・相手と書・題材を決め、必要な事柄を集める。 3 手紙を書く。 ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書いているか確かめる。 ・自分がいざ知らせたい相手に手紙を書く。 4 学習の振り返りをする。 ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】丁寧な言葉と普通な言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) 【態】書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書くようとしている。
12月	本は ともだち むかしはなしを よもう おかゆの おなべ 8時間 (書④、読④) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動(図書館活用)	1~2 3~5 6~8	1 学習の見通しをもつ。 ・知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・P60-61を見て、「いろいろなむかしはなしをよんで、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 カードの書き方を学習する。 ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。 ・カードの書き方を再度確かめる。 4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。 ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 5 学習を振り返る。 ・昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
1月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 なりきって よもう 2時間 (読②) ◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ☆お気に入りの詩を見つける活動(図書館活用) ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流(ICT活用)	1~2	1 作者(かたつむり、にじ)の気持ちや想像しながら詩を音読する。 ・読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむ。 2 詩集などからお気に入りの詩を選び、音読する。 ・声に出して詩集を読んだり、友達と気に入った詩を紹介し合ったりしながら、詩を選ぶ。 3 学習を振り返る。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	くわしく きこう 2時間 (話・聞②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動(図書館活用) ☆話す練習を動画で撮影(ICT活用)	1~2	1 自分の好きな本を友達に紹介する。 ・教師の本の紹介を聞き、これからの学習に見通しをもつ。 ・どの本を友達に紹介するか決める。 ・知りたいたいことを考えながら聞き、もっと知りたいことを質問する。 2 学習を振り返る。 ・本を紹介し合う活動の振り返りをして、これからも友達と好きなものを紹介し合って、友達のことをもっとよく知っていくように促す。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話の聞き、学習の見直しをもって、質問や感想を述べようとしている。
	ことばで あそぼう 2時間 (知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	1~2	1 言葉遊びの仕組みを理解する。 ・P78-79を見て、言葉遊びのしかたを理解し、ノートに書く。 2 言葉遊びを楽しむ。 ・教科書を参考に自分で言葉遊びのルールを決め、言葉遊びの問題を作る。 3 問題を出し合う。 ・問題を出し合うことでさまざまなルールの言葉遊びを知り、継続して言葉遊びを続ける意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。
1月	くらべて よもう どうぶつ の 赤ちゃん 10時間 (読⑩) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)イ)	1~2	1 学習の見通しをもつ。 ・いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て、動物の赤ちゃんへの興味・関心をもつ。 ・「どうぶつの赤ちゃんについて、かかっていることをくらべながらようもう」という学習課題を確認する。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【態】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)



<p>◎又早の内容と目次の挿絵を細心の注意を払って読み、感想をもつておくことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)</p> <p>■書かれていることを比べて読む。</p> <p>☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動(図書館活用)</p>	<p>3~6</p> <p>7~10</p> <p>2 教師の範読を聞く。 ・初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。</p> <p>3 ライオンとしまの赤ちゃんの様子や成長を比べながら読み取る。 ・「生まれたばかりのようす」「大きくなっていくようす」を観点ごとにまとめる。</p> <p>4 他の動物の赤ちゃんについての違いを調べる。 ・P88-89の「もっと よもう」を読み、比べる観点を確認する。 ・他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子で気づいた違いを発表し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)</p> <p>【能】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見直しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。</p>
<p>1月 ことばって、おもしろいな ものの名まえ</p> <p>6時間(知・技④、話・聞②)</p> <p>◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>■尋ねたり、応答したりする。</p>	<p>1</p> <p>2~3</p> <p>4~5</p> <p>6</p> <p>1 学習の見直しをもつ。 ・買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやり取りに関心をもつ。 ・P94-95を見て、「もの名まえをあつめておみせやさんごっこをしよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 教材文を読み、物の名前には上位語と下位語があることを理解する。 ・教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・集めた言葉を発表し合う。</p> <p>3 「おみせやさんごっこ」の準備をする。 ・2で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」と「お客さん」の話し方を練習する。</p> <p>4 「おみせやさんごっこ」をする。 ・「お店の人」と「お客さん」の言葉のやり取りを楽しむ。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)</p> <p>【能】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見直しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。</p>
<p>2月 わらしべちようじゃ</p> <p>1時間(読①)</p> <p>◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>○文章を読んで感じたことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■昔話の読み聞かせを聞く。</p> <p>☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材(道徳)</p> <p>☆いろいろな昔話を読む活動(図書館活用)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>1 知っている昔話を出し合う。</p> <p>2 教科書の挿絵を見ながら「わらしべちようじゃ」の読み聞かせを聞く。</p> <p>3 おもしろかったところや、気に入ったところについて友達と感想を伝え合う。 ・P126を参考に、読み聞かせやその他の楽しみ方について話し合ってもよい。</p>	<p>【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ)</p> <p>【能】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。</p>
<p>2月 かたかなの かたち</p> <p>3時間(知・技②、書①)</p> <p>◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■片仮名の言葉を使って文を書く。</p>	<p>1</p> <p>2~3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>1 平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。 ・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P139-140の「ひらがなと かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。</p> <p>2 間違えやすい片仮名を練習する。 ・P99を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。</p> <p>3 片仮名で書く言葉を集める。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。</p> <p>4 書いた文を発表し合う。</p>	<p>【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【能】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書くようとしている。</p>
<p>2月 ことばあそびをつくらう</p> <p>6時間(知・技①、書⑤)</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■言葉遊びを作る。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3~5</p> <p>6</p> <p>1 学習の見直しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなでときあおう」という学習課題を理解する。</p> <p>2 P100-101の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 ・できあがった文を声に出して読む。</p> <p>3 「ことばクイズ」を作る。 ・( )の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。</p> <p>4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【能】身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。</p>
<p>2月 ふたりで かんがえよう</p> <p>これは、なんでしょう</p> <p>4時間(話・聞④)</p> <p>◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■二人で相談し、考えをまとめる。</p>	<p>1</p> <p>2~3</p> <p>1 学習の見直しをもつ。 ・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでmondないをかんがえて、クイズたいかいをしよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 二人組を作り、クイズの問題を考える。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴(色や形、働き、様子など)をノートに書き出す。</p>	<p>【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)</p> <p>【能】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。</p>

		3 問題の出し方を話し合う。 ・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。	
		4 4 「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。	
		5 学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことが大切か、気づいたことを話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
2月～3月	よんで、かんじた、ことを、はなそう ずうと、ずうと、大すきだよ 8時間 (読⑥) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材 (道徳)	1 1 学習の見直しをもつ。 ・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらおう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(C(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【能】友達への考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見直しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
		2 2 お話を読んで思ったことを話す。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを話し合う。 ・出した感想をもとに、みんなで話し合いたいことを決め、これからの学習計画を立てる。	
		3～4 3 お話の筋を押さえる。 ・「エルフ」がどんなふうにならなかっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かる場所を見つける。	
		5～7 4 学習計画に沿って話し合う。 ・2で決めた話し合いたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達と話す。	
		8 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
3月	にて いる かん字 3時間 (知・技②、書①) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■似ている漢字を使って文を書く。	1 1 似ているところ気をつけて漢字を書く。 ・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら、ノートに書く。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。(B(1)ウ) 【能】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書くようとしている。
		2 2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。	
		3 3 漢字を使って文を作る。	
3月	おもい出して かこう いい こと いっぱい、一年生 10時間 (書⑩) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材 (道徳) ☆これまでの活動の様子を写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照 (ICT活用)	1 1 学習の見直しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら1年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【能】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書くようとしている。
		2 2 1年間の出来事を振り返る。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。	
		3 3 書きたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容をまとめてメモを作る。	
		4～8 4 メモを基に、文章を書く。 ・P124の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 ・様子を表す絵を描いたり、写真を貼ったりする。	
		5 推敲する。 ・句読点や文字の間隔を見直す。 ・内容の分かりにくいところはないか、読み直す。	
		9～10 6 書いたものをまとめて冊子を作る。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。	
		7 冊子を読み合う。 ・友達への思い出についての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。	
		8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
		9 1年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出してP136の表彰状に書く。 ・1年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	

### 3年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	よく聞いて、じこしょうかい 1時間 (語・聞①) ○相手の話を「話」たり聞いたりするときに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方	1	1 扉の詩を読み、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見て、国語学習の見直しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話しかけたいことの中から

	<p>○相手の声や顔色や表情や仕草や動作など、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>■自己紹介をする。</p> <p>☆楽しい学級づくり(特別活動)</p>		<p>2 P13を読み、3年生の国語学習での目標や楽しみなことを書く。</p> <p>3 P14-15を読んで活動の流れを確かめ、自分の「すきなもの」一つ考えて、前の人の話を繰り返しながら、順番に紹介し合う。</p> <p>4 友達の好きなものを聞いた感想を伝え合う。</p>	<p>【思・判・表】「前／こゝ／聞／こゝ」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(A(1)エ)</p> <p>【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介しようとしている。</p>
4月	<p><b>どきん</b></p> <p>1時間(読①)</p> <p>◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■詩を楽しんで音読する。</p>	1	<p>1 「どきん」を読み、詩の特徴を確認する。</p> <p>2 言葉の調子を楽しみながら、音読の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行末の擬声語や擬態語に注意する。</li> <li>・強弱をつけたり、身振りを交えたりして読む。</li> </ul> <p>3 音読を聞き合い、読み方を工夫したところを伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読をして感じた楽しさをノートに書く。</li> <li>・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。</li> </ul>	<p>【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)</p> <p>【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。</p>
4月	<p><b>わたしのさいこうの一日</b></p> <p>つづけてみよう</p> <p>1時間(書①)</p> <p>○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)</li> </ul> <p>■日記を書く。</p>	1	<p>1 「さいこうの一日」の日記を書くことを確認し、したいことや起こってほしいことを書き出す。</p> <p>2 「さいこうの一日」の日記を書く。</p> <p>3 書いた日記を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>4 P20「つづけてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。</p>	<p>【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</li> </ul> <p>【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って日記を書こうとしている。</p>
4月	<p><b>登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつづえ合おう</b></p> <p><b>春風をたどって</b></p> <p>8時間(読③)</p> <p>◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>■読んで想像したことを伝え合う。</p> <p>☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすることを育てる題材(道徳)</p>	1 2~6 7~8	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。</li> <li>・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>2 四つの場面での「ルウ」の行動を確かめながら音読する。</p> <p>3 「ルウ」の気持ちに分かる言葉を見つけ、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちが分かる言葉をまとめる。</li> </ul> <p>4 「ルウ」の気持ちの変化を具体的に想像し、ノートにまとめる。</p> <p>5 物語の続きを想像し、ノートに書く。</p> <p>6 友達の書いたものを読み、感想を伝え合う。</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</li> <li>・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)</li> <li>・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)</li> </ul> <p>【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)</p> <p>【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。</p>
4月	<p><b>図書館たんていだん</b></p> <p>1時間(知・技①)</p> <p>◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)</p> <p>■図書館の地図を作り、本を探す。</p> <p>☆図書館の配架を知る活動(図書館活用)</p>	1	<p>1 P35の写真を参考にして、学校図書館の工夫を考える。</p> <p>2 P36を読み、図書館では内容ごとに本が分類され並べられていることを知る。</p> <p>3 学校図書館に行き、本の分類を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのかを調べる。</li> <li>・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。</li> <li>・読書記録のつけ方を知る。</li> </ul>	<p>【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p> <p>【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。</p>
4月	<p><b>国語辞典を使おう</b></p> <p>2時間(知・技②)</p> <p>◎辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ(総合的な学習の時間など)</p>	1~2	<p>1 国語辞典を使うときについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。</li> </ul> <p>2 国語辞典の見方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典を開いたり、P38の二次元コードを参考にしたりして、「国語辞典のれい」の内容を確かめる。</li> </ul> <p>3 見出し語の見つけ方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。</li> </ul> <p>4 言葉の意味を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。</li> <li>・調べて分かった意味をノートにまとめる。</li> <li>・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。</li> </ul>	<p>【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。</p>
4月	<p><b>漢字の広場①</b></p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</li> </ul> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	1~2	<p>1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。</p> <p>2 P41を見て、動物や人の様子や、行動について説明する。</p> <p>3 提示されている漢字を使って、動物園の様子を文に書く。</p> <p>4 書いた文を友達と読み合う。</p>	<p>【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
4月	<p><b>春のくらし</b></p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p>	1 2	<p>1 「みどり」を読み、生活の中で春らしさを感じることを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。</li> </ul> <p>2 身の回りで見つけた春を感じたものについて書く。</p>	<p>【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。</p>

	<p>■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆春を感じたものの撮影（ICT活用）</p>		3	書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	
5月	<p>知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう もつと知りた、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために 6時間（話・関⑥） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動（特別活動、道徳）</p>	1	1	学習の見通しをもつ。 ・友達のことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立て	<p>【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ） 【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。</p>
5月	<p>漢字の音と訓 2時間（知・技②） ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）</p>	1～2	1	漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。 ・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確かめ	<p>【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。（(1)エ） 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。</p>
5月	<p>漢字の広場② 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	1～2	1	提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。	<p>【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・接続する語句の役割について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
5月	<p>まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう 文様 こまを楽しむ 【じょうほう】全体と中心 8時間（知・技①、読⑦） ◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的を意識して、中心となる語や文を見つめることができる。（思・判・表C(1)カ） ■説明する文章を読み、感想を伝え合う。 ☆伝統や文化を知り、歴史を愛する題材（道徳）</p>	1～2	1	学習の見通しをもつ。 ・P53を見て、文様やこまについて知っていることを発表し合う。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。	<p>【知・技】 ・段落の役割について理解している。（(1)カ） ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） 【態】進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。</p>
6月	<p>相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう 気持ちをごめて、「葉てくささい」 4時間（書④） ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■行事を案内する手紙を書く。</p>	1	1	学習の見通しをもつ。 ・運動会や学習発表会などの、誰かに見に来てほしい行事や、手紙を送りたい相手を想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立て	<p>【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙</p>
		2～3	3	P68「土川さんの手紙」を読み、手紙の組み立てを確かめる。	

<p>☆時と場に応じた適切な手紙を書く活動（社会、総合的な学習の時間）</p>	4	<p>4 組み立てに沿って手紙を書き、読み返す。 ・P68「あんないの手紙を読みかえずときは」を参考にして文章を整える。 ・書き終わったら、声に出して読み返し、確かめる。</p> <p>5 手紙を届ける。 ・郵便で送る場合は、住所と宛名を書く。その際、P147「手紙を送ろう」を参考にするとよい。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>を書こうとしている。</p>
<p>6月 漢字の広場③ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	1~2	<p>1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。</p> <p>2 P70を見て、日曜日の出来事と家の人の今週の予定を簡単に考える。</p> <p>3 提示されている漢字や時を表す言葉を使って、文を書く。</p> <p>4 書いた文を友達と読み合う。</p>	<p>【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
<p>6月 登場人物のへんかに気をつけて読み、好きな場面について話し合おう まいごのかぎ 6時間（読⑥） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■物語を読んで、好きな場面について話し合う。</p>	1 2~4	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P71を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 「まいごのかぎ」を場面に分ける。 ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分けする。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」の気持ちをノートにまとめる。</p> <p>3 物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったのかを考える。 ・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。</p> <p>4 好きな場面とその理由をノートに書く。 ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。</p> <p>5 好きな場面を友達と伝え合い、自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。</p>
<p>6月 俳句を楽しもう 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■俳句を音読する。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆五音と七音を組み合わせた詩などを採る活動（図書館活用）</p>	1	<p>1 俳句の決まりを知る。 ・俳句は、「5・7・5」の17音で作られていることや季語があることを確認する。</p> <p>2 俳句を声に出して読む。 ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確認したりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を開くのもよい。</p> <p>3 気に入った俳句を音読したり暗唱したりする。</p> <p>4 P93を読み、身の回りの五音と七音を組み合わせた詩や歌を探す。</p> <p>5 採った詩や歌を友達と見せ合う。</p>	<p>【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。</p>
<p>6月 こそあど言葉を使いこなそう 2時間（知・技②） ◎指示する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）</p>	1~2	<p>1 「こそあど言葉」を知る。 ・「問いをもと」を基に、生活の中でうまく伝わらなかったことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 ・P95の設問1に取り組む。</p> <p>2 「こそあど言葉」を使うことで、文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。</p> <p>3 P95の設問2・3に取り組む、「こそあど言葉」が指す語句を考えたり、短い文章を作ったりする。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。</p>	<p>【知・技】指示する語句の役割について理解している。（(1)カ） 【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。</p>
<p>6月 【じょうほう】引用するとき 3時間（知・技①、書②） ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。 ☆調べたことを文章にまとめる活動（社会など）</p>	1~3	<p>1 「引用」を知る。 ・P96を参考に、本などから調べたことを報告する際は、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。その際、P160「学習に用いる言葉」を確認する。</p> <p>2 「引用」の決まりを理解する。 ・文章の中で引用する際の決まりを確認する。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。</p> <p>3 P56「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。</p>	<p>【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。</p>
<p>7月 つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう 仕事のくふう、見つけたよ【コラム】符号など 10時間（書⑩） ◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使えし、句読点を適切に打つ</p>	1~2	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・大人になったらしたい仕事を話し合い、そこにはどのような工夫があるかを想像する。 ・「問いをもと」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 身の回りにある仕事の中から、調べてみたい仕事を選ぶ。</p>	<p>【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。（(1)ウ） 【思・判・表】 ・段落の役割について理解している。（(1)カ） 【態】「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確に</p>

<p>○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■調べたことを報告する文章を書く。</p> <p>☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動(社会、総合的な学習の時間)</p> <p>☆調べる仕事についての本を探す活動(図書館活用)</p> <p>☆見つけた工夫の撮影(ICT活用)</p>	<p>3～6</p> <p>7～9</p> <p>10</p>	<p>3 仕事について調べ、伝えることを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある仕事について、本を読んだり、見学をしたり、インタビューをしたりして調べる。</li> <li>・調べて分かったことはメモをする。</li> <li>・P99「つたえることをえらぶときは」やP100「土川さんのメモ」を参考にするなどして、特に伝えたいことは何かを考え、読み手のことを意識して伝えること</li> </ul> <p>4 報告文の組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P100を参考に、伝えたいことを内容のまとまりに分けて整理する。</li> </ul> <p>5 報告文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P101の文章や二次元コードを参考にし、気をつけることを確認してから書き始める。</li> <li>・句読点などの使い方などにも注意して書く。その際、P103「符号など」を参考</li> </ul> <p>6 報告文を友達と読み合い、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告文の書き方や印象に残ったことなどについて伝え合う。</li> </ul> <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</li> </ul>	<p>「書くこと」において、相手の目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見直しをもって調べたことを報告する文章を書くようとしている。</p>
<p>7月 夏のくらし</p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■夏を感じたことについて文章を書く。</p> <p>☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)</p> <p>☆夏を感じたものの撮影(ICT活用)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>1 「はなび」を読み、生活の中で夏らしさを感じることを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。</li> </ul> <p>2 身の回りで見つけた夏を感じたものについて、ノートに書く。</p> <p>3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。</p>	<p>【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書くようとしている。</p>
<p>7月 本は友だち</p> <p>本で知ったことをクイズにしよう</p> <p>鳥になっときょうりゅうの話</p> <p>5時間(読⑤)</p> <p>◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。</p> <p>☆本を選んで読む活動(図書館活用)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3～5</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本から新しい知識を得た経験を想起する。</li> <li>・学習課題を設定し、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>2 本の読み方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな本を、どのように読んでいるかを友達と話し合う。</li> <li>・P160を見るなどして、索引の使い方を理解する。</li> </ul> <p>3 P108を参考に、図鑑や科学読み物などの本の種類について知る。</p> <p>4 「鳥になっときょうりゅうの話」を読み、初めて知ったことを伝え合う。</p> <p>5 本を選んで読み、クイズ大会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この本、読もう」などを参考にして本を選んで読む。</li> <li>・驚いたことや友達が知らないと思うことなどからクイズを考え、友達と出し合</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。</li> </ul>	<p>【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)</p> <p>【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。</p>
<p>9月 わたしと小鳥とすずと</p> <p>夕日がせなかをおしてくる</p> <p>2時間(読②)</p> <p>○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。</p>	<p>1～2</p>	<p>1 二つの詩を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連ごとに様子を思い浮かべながら音読する。</li> </ul> <p>2 「わたしと小鳥とすずと」を読み、どうして「わたし」は「みんながって、みんなない。」と言っているのかを考え、話し合う。</p> <p>3 「夕日がせなかをおしてくる」を読み、誰が、どのように「さよなら」を言っているのかを考え、話し合う。</p> <p>4 連と連の関係を考えながら二つの詩を読み、気づいたことや考えたことを話し合</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</li> </ul>	<p>【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。</p>
<p>9月 こんな係がクラスにほしい</p> <p>3時間(話・聞③)</p> <p>◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。</p> <p>☆係活動における話し合い(特別活動)</p>	<p>1～2</p> <p>3</p>	<p>1 クラスの係活動を振り返り、新しく作りたい係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いついた係や仕事を付箋に書き出す。</li> </ul> <p>2 グループで話し合い、考えを整理してまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。</li> <li>・目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合ったことを整理する。</li> </ul> <p>3 グループで話し合ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</li> </ul>	<p>【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。(A(1)ア)</li> <li>・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)</li> </ul> <p>【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見直しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。</p>
<p>9月 ポスターを読もう</p> <p>2時間(読②)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見つめることができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>1 身の回りには、どのようなポスターがあるのかを想起する。</p> <p>2 P124「ポスターのれい」を見て、工夫しているところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。</li> </ul> <p>3 P126-127の(ア)(イ)のポスターを比べて読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらのポスターのほうがお祭りに行きたくなるか、理由とともに友達と話し合う。</li> <li>・二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。その際、整理のしかたはP163「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。</li> <li>・ポスターが作られた目的や知らせたい相手を考えて、なぜ相違点があるのかを話し合</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</li> </ul>	<p>【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)</li> </ul> <p>【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>

9月	書くことを考えるときは 2時間(書②) ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技②イ) ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏休みの思い出を書く。	1～2	1 図を使って考えを広げることを知る。 ・中心にテーマを書き、練でつなぎながら考えを広げる。 2 書くことを選ぶ。 ・相手や目的を意識して書くことを選ぶ。 3 選んだことを基に文章に書く。 4 文章を友達と読み合う。 ・図を見ながら、どのようにして書くことを選んだのかを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(②イ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【能】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
9月	漢字の組み立て 3時間(知・技③) ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	1～3	1 「へん」「つくり」を知る。 ・P130を参考に、2枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P131の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。 2 「へん」「つくり」以外の漢字の組み立てを知る。 ・P132を参考に、2枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P133の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。	【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(③ウ) 【能】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
9月	ローマ字 4時間(知・技④) ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。(知・技(1)ウ) ☆ローマ字入力(ICT活用)	1～3  4	1 P138の写真を参考に、身の回りにおけるローマ字表記を想起する。 2 P137のローマ字表を見ながら、ローマ字表記について知る。 ・ローマ字表の見方、書き表し方の決まり、ローマ字入力について理解する。 ・P135の設問に取り組み。 3 ローマ字入力に取り組み。 ・P134の設問に取り組み。 ・好きな言葉などをローマ字で入力する。	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(①ウ) 【能】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。
月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
9月～10月	場面をくらべながら読み、感想を書こう ちいちゃんのかげおくり 10時間(読⑩) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を読み、感想をまとめる。 ☆戦争や平和について考え、平和を願う心を養う題材(道徳)	1～2  3～7 8～9  10	1 扉の詩を音読したり、P5「国語の学びを見わたそう」を見たりして、下巻の学習を見通す。 2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 第1場面と第4場面の「かげおくり」の様子を比べ、共通点や相違点を確かめる。 4 第1場面から第4場面までの「ちいちゃん」の気持ちの変化を想像する。 ・行動や様子を表す言葉から、「ちいちゃん」の気持ちを想像する。 5 第5場面があることで、どんなことが分かるかを第4場面までと比べて考える。 6 「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことを、理由とともに文章にまとめる。 ・P29「まとめ方のれい」を参考に、場面を比べて読んだり、詳しく読んだりして感じたことを、ノートに書く。 7 友達と感想を読み合う。 ・感じ方の共通点や相違点について交流する。 8 学習を振り返る。 ・初発の感想と比べて、どのような読みの変容があったかを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P144「メロディー大すきな わたしのピアノ」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(①オ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【能】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。
10月	修飾語を使って書こう 2時間(知・技②) ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ)	1～2	1 修飾語の働きを知る。 ・「問いをもとう」を基に、文が分かりにくい理由を考える。 ・主語と述語について、既習の内容を確認する。 ・修飾語によって、文の内容が詳しくなることを理解する。 2 修飾語について、理解していることを確かめる。 ・P33の設問に取り組み。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(①カ) ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。(①オ) 【能】粘り強く修飾と被修飾との関係について理解し、学習課題に沿って修飾語を使って文を書こうとしている。
10月	秋のくらし 2時間(書②) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■秋を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆秋を感じたものの撮影(ICT活用)	1	1 「虫の声」を読み、生活の中で秋らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた秋を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(①オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【能】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
10月	進行にそって、はんで話し合おう おすすめの一さつを決めよう 8時間(語・関⑧) ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点を明らかにし、考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ)	1～2	1 学習の見通しをもつ。 ・1年生から依頼があり、班ごとに楽しい本を決めて紹介するという設定を確認する。 2 目的を決めることを確かめ、紹介したい本とその理由を付箋に書く。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(②イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選択している。(①オ)

<p>見の共通点や相違点に着目し、考えをまとめることができる。(思・判・表 A(1)オ)</p> <p>○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>■グループで役割を決めて話し合い、考えをまとめる。</p> <p>☆インタビューによって調査する活動(社会、総合的な学習の時間)</p> <p>☆おすすめの本を選ぶ活動(図書館活用)</p>	3~4	<p>3 役割を決め、進め方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会、記録、計時などの役割があることを確認する。</li> <li>・P37「進め方のれい」を参考にして、話し合いの進め方をノートに書く。</li> </ul> <p>4 話し合いのしかたを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P38の二次元コードで話し合いの例を見て、話し合いのしかたを知る。</li> <li>・P38-41を見ながら、司会と参加者が気をつけることを確認する。</li> </ul> <p>5~7 5 本を1冊に決めるために、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を意識して、意見と理由を明確にしなが話し合いを進める。</li> </ul> <p>8 6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いのしかたでよかったところを伝え合う。</li> <li>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</li> </ul>	<p>んている。(A(1)ウ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>【能】粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。</p>
<p>11月 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう</p> <p>すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます</p> <p>12時間(書⑥、読⑥)</p> <p>◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>◎目的を意識して、中心となる語や文を見つめることができる。(思・判・表 C(1)ウ)</p> <p>○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)</p> <p>■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。</p> <p>☆食育に関わる題材(総合的な学習の時間)</p> <p>☆食べ物について書かれた本を探す活動(図書館活用)</p>	1 2~3 4~6 7~9 10~11 12	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P43を見て、大豆について知っていることなどを話し合う。</li> <li>・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>2~3 2 文章全体の組み立てに着目して内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ」「中」「終わり」に分け、文章の話題を確かめる。</li> <li>・筆者が「中」で挙げている具体例を、表などにしてノートに整理する。</li> </ul> <p>3 「はじめ」に「問い」を入れるとしたら、どのような「問い」を入れるかを考え</p> <p>4 「中」の書かれ方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの段落の中心となる文に線を引く。</li> <li>・どのような順序で事例が挙げられているのかを捉える。</li> </ul> <p>4~6 5 筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の組み立てと各段落の組み立て、言葉の使い方、写真の使い方などに着目する。</li> </ul> <p>6 P51の食べ物について書かれた本を読み、感想をまとめて友達に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて知ったことや説明のしかたなどの観点から感想をもつ。</li> </ul> <p>7 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</li> <li>・P52「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。</li> </ul> <p>7~9 8 取り上げる材料について、調べて整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P53「調べたことを整理するときは」を参考にして、調べたことを図や表にして整理する。</li> </ul> <p>9 文章の組み立てと例の書き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P53「組み立てを考えるとときは」を参考にして、段落や事例の順序などを考え</li> </ul> <p>10~11 10 説明する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。</li> <li>・読み返して、間違いなどがなければ確かめる。</li> </ul> <p>11 友達と感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き方と内容の両面から、文章のよいところを伝え合う。</li> </ul> <p>12 12 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ)</li> <li>・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)</li> <li>・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)</li> </ul> <p>【能】目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つめたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。</p>
<p>11月 ことわざ・故事成語</p> <p>4時間(知・技②、書②)</p> <p>◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。</p>	1~2 3~4	<p>1 知っていることわざや故事成語を出し合い、関心をもつ。</p> <p>2 ことわざや故事成語について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P57のことわざの意味を調べる。</li> <li>・P58の故事成語の意味や由来を調べたり、P152「知ると楽しい『故事成語』」を読んで故事成語への関心を広げたりする。</li> </ul> <p>3~4 3 グループでことわざ辞典を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなことわざを選び、意味と文例をカードに書く。</li> <li>・どのような順でとじるかを話し合う。</li> <li>・できあがったことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。</li> <li>・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</li> </ul>	<p>【知・技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【能】積極的にことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。</p>
<p>11月 漢字の意味</p> <p>2時間(知・技②)</p> <p>◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p>	1~2	<p>1 同じ発音でも、意味が違えば使われる漢字が違うことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字と仮名を交えて書くことで、意味が分かりやすくなることを理解する。</li> </ul> <p>2 設問に取り組み、漢字を正しく使い分けて書く。</p> <p>3 P154「これまでに習った漢字」から、同じ読み方で意味の異なる漢字を見つけ、短文を作る。</p>	<p>【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【能】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。</p>
<p>11月 短歌を楽しもう</p> <p>1時間(知・技①)</p> <p>◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)</p>	1	<p>1 短歌について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌は「5・7・5・7・7」の31音で作られていることや、情景や心情が込められていることなどを確認する。</li> </ul> <p>2 言葉の調子や響きを楽しみながら、声に出して繰り返し読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P63の二次元コードから、音声を聞くのもよい。</li> </ul> <p>3 気に入った短歌を暗唱する。</p>	<p>【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)</p> <p>【能】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。</p>
<p>11月 漢字の広場④</p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p>	1~2	<p>1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。</p> <p>2 P64の絵を見て、町の様子を説明する。</p> <p>3 提示されている漢字を使って、町の様子を説明する文を書く。</p>	<p>【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【能】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>



	■紙を見く恐れしたことを基に又を書く。		4 書いた文を友達と読み合う。	
12月	登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかいしょう 三年とうげ 6時間(読⑥) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。 (思・判・表C(1)イ) ○引用のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつことができる。 (思・判・表C(1)オ) ■民話や昔話を紹介する。 ☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材(道徳、総合的な学習の時間) ☆民話や昔話を探す活動(図書館活用)	1 2~3 4 5~6	1 学習の見直しをもつ。 ・これまでに読んだ民話や昔話を想起し、どんなところがおもしろかったかを伝え合う。 ・P65を見て、どのような内容の民話かを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・並行読書を行う場合は、P77「この本、読もう」なども参考にし、学校図書館などで民話や昔話の本を探して読む。 2 「三年とうげ」の内容や書かれ方を確かめる。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどの観点から内容をまとめる。 3 「おじいさん」の変化を捉える。 ・行動や様子を表す言葉に着目し、ノートにまとめる。 4 「三年とうげ」のおもしろいところをノートに書く。 ・出来事、登場人物の行動や気持ち、考え方、言葉の使われ方や文の調子などの観点からまとめる。 5 民話を選んで読み、紹介する文章を書く。 ・おもしろいところを引用しながら、民話を紹介する文章を書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。(2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。
12月	しょうかいする文章を書き、感想をつたえおもう わたしの町のよいところ 10時間(書⑩) ◎書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○考えとそれを支える理由について理解することができる。(知・技(2)ア) ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を視察・調査する題材(社会) ☆文章に適切な写真の撮影(ICT活用)	1 2~3 4~5 6~8 9~10	1 学習の見直しをもつ。 ・自分が住む町には、どのようなものがあるかを想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 紹介するものを決める。 ・紹介したいものとその理由を図を使って書き出し、書くことを選ぶ。 3 組み立てを考える。 ・P83「水野さんの組み立てメモ」を参考にして、どのような順序で書くかを考える。 4 紹介する文章を書く。 ・P84「水野さんが書いた、しょうかいする文章」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・内容と書き方の両面から感想を伝え合い、自分の文章のよい点を考える。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書くこととしている。
12月	冬のくらし 2時間(書②) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆冬を感じたものの撮影(ICT活用)	1 2	1 「ゆき」を読み、生活の中で冬らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた冬を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書くこととしている。
1月	詩のくふうを楽しもう 4時間(書②、読②) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩を創作する。 ☆詩を探す活動(図書館活用)	1 2~4	1 6編の詩を音読し、詩の工夫を見つける。 ・言葉のリズムや響きを楽しみながら音読する。 ・それぞれの行の最初の字をつなげたり、文字や詩全体の形を絵のように見たりする。 2 6編の詩の中から好きな詩を選び、おもしろいと思うところを友達と話し合う。 3 詩を創作する。 ・6編の詩の工夫をいかしながら創作する。 4 作った詩を友達と読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。 ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表する。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
1月	四まいの絵を使って 2時間(書②) ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	1~2	1 物語の基本的な組み立てを確かめる。 ・「始まり」「出来事」「解決」「結び」という組み立てを知る。 ・「三年とうげ」の組み立てを確かめる。 2 4枚の絵を並べ替えて、一つの物語を作る。 ・それぞれの絵について考えたことを、簡単に書き出す。 ・物語の基本的な組み立てを参考にして、おおまかな話の流れをメモする。 3 考えた物語の内容を友達と交流し、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考慮することに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書くこととしている。
1月	カンジーはかせの音調かるた	1~2	1 設問の「カンジーはかせが作った歌」を音読する。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年ま

	2時間(知・技②) ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)		2 漢字の音と訓を両方使った歌を作る。 ・P95「作り方」を参考にして歌を作る。P154「これまでに習った漢字」、P159「この本で習う漢字」を参考にしてもよい。 ・正しく音と訓が使っているかを確認する。 3 作った歌を友達と読み合う。	でに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【能】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
1月	漢字の広場⑤ 2時間(書②) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1~2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P96の絵を見て、学校でどんなことをしているのかを説明する。 3 提示されている漢字を使って、日記をつけるように学校の様子を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【能】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
1月	読んで考えたことをつたえ合おう ありの行列 7時間(読⑦) ◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ) ■文章を読んで考えたことを伝え合う。 ☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材(理科)	1 2~5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P97を見て、ありやありの行列について知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「ありの行列」で説明されていることを確かめる。 ・「問い」と「答え」が、どの段落にどのように書かれているかを捉える。 ・ウイルソンが調べたことやそこから考えたことを捉える。 3 ウイルソンの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて、書かれていることを短くまとめる。 4 「ありの行列」とP103「もっと読もう」を読んで、考えたことを文章にまとめる。 5 書いた文章を友達と読み合う。 ・共通点や相違点を見つけて伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ) ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【能】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
1月 ~ 2月	言葉について考えよう つたわる言葉で表そう 5時間(知・技②、書③) ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■相手に伝わる文章を書く。 ☆体験したことを報告する文章にまとめる活動(社会、総合的な学習の時間)	1~3 4~5	1 学習の見通しをもつ。 ・P107を読み、「問いをもとう」を基に、伝えたいことがうまく伝わらなかった理由について考える。 2 体験したことや感じたことを、よりよく伝えるためにはどうするとよいかを考える。 ・様子や気持ちが伝わる言葉を使い、ロボロボの話方を改善する。 ・似た意味でも言葉から受ける感じが違うことを知り、伝えたいことに合う言葉を選ぶ大切さを知る。 3 冬休みの出来事とそのときの気持ちを200字で書き、友達と読み合っ、学習の全体を振り返る。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にしてもよい。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【能】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝わる文章を書こうとしている。
2月	書き表し方をくふうして、物語を書こう たから島のぼうげん 8時間(書⑧) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■物語を創作する。	1~3 4~6 7~8	1 学習の見通しをもつ。 ・宝物を探す冒険という、どんな物語が思い浮かぶか考える。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P112-113の地図から想像を広げ、物語の構想を練る。 ・P112「物語のないようを考えるときは」を確認し、登場人物や出来事などを書き出す。 3 物語の組み立てを考える。 ・P92「四まいの絵を使って」で学んだことをいかし、「始まり」「出来事」「解決」「結び」の組み立てに当てはめる。 4 物語を創作する。 ・P114-115「物語のいい」を読み、書き表し方のよさを見つける。 ・比喩や修飾語を用いるなどして、読み手を引きつけるように言葉を選んで書く。 5 友達の物語を読み、感想を伝え合う。 ・物語の内容と言葉の使い方のよさを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【能】進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
2月	つたえたいことを、理由をあげて話そう お気に入りの場所、教えます 8時間(話・聞⑧) ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○考えとそれを支える理由や事例 全体と中心などの情報と情報との関係につ	1~2	1 学習の見通しをもつ。 ・学校の中で自分が好きな場所を出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 みんなに教えたいお気に入りの場所と、その理由を考える。 ・P117「話すことを考えるときは」を参考に、お気に入りの場所について考えを整理する。P167「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙

	<p>○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>■お気に入りの場所を発表する。</p> <p>☆発表に適切な写真の撮影(ICT活用)</p> <p>☆発表の練習を撮影し見返すことでよりよくなる活動(ICT活用)</p>	<p>3～4</p> <p>3 分かりやすく伝えるために、資料を用意する。 ・どのような資料が必要かを考え、必要に応じて写真を撮りに行くなどする。</p> <p>4 組み立てを考え、発表メモを作る。 ・P118「発表メモのれい」やP119「発表のれい」を参考に、組み立ての工夫を見つかる。 ・「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを意識し、分かりやすく伝えるように発表メモを作る。</p> <p>5～6</p> <p>5 グループで練習をする。 ・P118の二次元コードの動画を見て、話し方の工夫を確認する。 ・P119「話し方をくふうするときは」を参考にして、ポイントを意識して練習をする。</p> <p>7～8</p> <p>6 発表会を開き、感想を伝え合う。 ・組み立てや話し方についてよかったところを伝え合う。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>「聞きこ」「聞きこ」にわたって、相手に話せるように、話し方の工夫をしながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(A(1)イ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>【能】進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。</p>
3月	<p><b>登場人物について考えたことを、つたえ合おう</b></p> <p><b>モチモチの木</b></p> <p>12時間(読②)</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。</p> <p>☆他者への愛情をもち、勇気をもって実行する姿勢を育てる題材(道徳)</p>	<p>1～2</p> <p>1 学習の見通しをもつ。 ・P121を見て、物語の内容や「モチモチの木」はどのような木なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、場面ごとに登場人物の行動や会話などを確かめる。</p> <p>3～9</p> <p>2 場面ごとに登場人物の性格や気持ちの変化を想像する。 ・P134の「言葉に着目しよう」を参考に、「豆太」の性格を想像する。 ・着目する点を選び、「豆太」は変わったのかどうかを考え、話し合う。</p> <p>10～12</p> <p>4 「豆太」について感じたことや考えたことを、ノートに書く。 ・文章のどの叙述から考えたのかを明確にし、自分の経験と比べて考えたことをまとめる。</p> <p>5 まとめた考えを伝え合う。 ・友達のと自分の考えを比べて、共通点や相違点をノートに書く。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増い、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)</p> <p>【能】登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。</p>
3月	<p><b>漢字の広場⑥</b></p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>○修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	<p>1～2</p> <p>1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。</p> <p>2 P137の絵を見て、季節ごとの人物の行動や周りの様子を説明する。</p> <p>3 提示されている漢字を使って、それぞれの季節の様子を説明する文を書く。</p> <p>4 書いた文を友達と読み合う。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>・修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ)</p> <p>【思・判・表】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【能】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
3月	<p><b>三年生をふり返って</b></p> <p>1時間(書①)</p> <p>○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。</p> <p>☆一人一人のキャリア形成と自己実現を育む題材(特別活動)</p>	<p>1</p> <p>1 3年生の学習を振り返る。 ・P140「『たいせつ』のまとめ」を基に、国語で学んだことを振り返る。</p> <p>2 自分が身につけたと思う言葉の力を書き、友達と伝え合う。</p>	<p>【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【能】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。</p>

## 5年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	<p><b>ひみつの言葉を引き出そう</b></p> <p>1時間(話・聞①)</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。</p>	1	<p>1 扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方確かめたり、見直しをもったりする。</p> <p>2 P17を読み、5年生の国語学習での目標や楽しみなことを書く。</p> <p>3 P18-19を読み、活動のしかたを確かめる。</p> <p>4 気持ちや様子を表す言葉を、一人一つずつカードに書く。他の人に言葉が見えないように、グループの中で交換する。</p> <p>5 一人がカードを持ち、グループで2分間話す。 ・カードを持たないメンバーは、どうすればカードを持つ人が「ひみつの言葉」を口にするかを考えながら話す。</p> <p>6 カードに書かれている言葉を確認、会話を振り返る。</p> <p>7 カードを持つ人を交代して、再度行う。</p> <p>8 話してみても感じたことを振り返る。</p>	<p>【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ)</p> <p>【能】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見直しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。</p>
4月	<p><b>かんがえるのって おもしろい</b></p> <p>1時間(読①)</p> <p>◎詩を音読することができる。(知・技(1)ケ)</p> <p>○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■学習を振り返る。</p>	1	<p>1 詩を声に出して読んだり、友達の音読を聞いたりして、描かれていることを想像する。</p> <p>2 思い浮かべた様子や自分の経験と重ねて感じたことをノートに書く。</p> <p>3 ノートに書いたことを基にして、詩を読んで感じたことを伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】詩を音読している。(1)ケ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)</p> <p>【能】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。</p>
4月	<p><b>名前を使って、自己しようかい</b></p>	1	<p>1 P23の作例を基に、名前を使って自分を紹介する文章の書き方を確かめる。</p>	<p>【知・技】</p>

<p><b>続けてみよう</b> 1時間(書①) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合おう</p>	<p>2 自分を紹介する文章を書く。 ・名前の文字から始まる言葉を思い浮かべ、自分の書きたいことに合ったものを選ぶ。 3 書いた文章をグループで読み合い、感想を伝える。 4 「いいな。」と思った作品を、クラス全体で紹介する。 5 名前を使って自己紹介をしてみても気づいたことを振り返る。 6 P24「続けてみよう」を読み、日々のことを記録することの大切さに気づき、ノートの書き方について学ぶ。</p>	<p>・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)イ)</p>
<p><b>4月 人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう</b> <b>銀色の裏地</b> 5時間(読⑤) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■印象に残ったことを伝え合う。 ☆友情、信頼や相互理解に関わる題材(道徳)</p>	<p>1 1 学習の見直しをもつ。 ・P25を見て、物語の内容を想像する。 2 「理緒」の心情や、他の人物との関係を捉える。 ・P36「言葉に着目しよう」を参考に、「理緒」の心情や、他の人物との関わりが表れているところに線を引く。 ・P37「関係を図に表す」を参考に、線を引いたところを使って、登場人物の関係を図に表す。 3 3 登場人物の心情や人物どうしの関係が、どのように変化したのかについて想像する。 ・変化のきっかけになった出来事や言動について考える。 ・「理緒」から見た「高橋さん」の人物像について考える。 4 4 P37「考えのまとめ方」を参考に、強く印象に残ったことをまとめる。 ・物語の中の印象的な表現や、自分の経験と重ねて感じたことから考える。 5 5 考えたことを伝え合い、新たに考えたことや感じたことをノートに書く。 6 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】 ・粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見直しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。</p>
<p><b>4月 図書館を使いこなそう</b> 1時間(知・技①) ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■本を探して、記録カードを書く。 ☆図書館で本を探す活動(図書館活用)</p>	<p>1 1 何かをさまざまな角度から調べるときに、どのように本を探しているかについて、経験を紹介し合う。 2 図書館での本の探し方について理解する。 ・「日本十進分類法」について知る。 ・著作権の観点から、図書館を活用する際の留意点を確認する。 3 図書館で、複数の棚から本を探す。 ・自分でテーマやキーワードを決めて探す。 4 P41の記録カードの例を見て、読書記録のつけ方を知る。</p>	<p>【知・技】 ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【態】 ・進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。</p>
<p><b>4月 漢字の成り立ち</b> 2時間(知・技②) ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ)</p>	<p>1 1 漢字には、大きく分けて四つの成り立ちがあることを、例とともに確認する。 2 2 P43の設問1に取り組む。 ・漢字辞典を使って、形声文字について確認する。 3 3 P43の設問2に取り組む。 ・漢字辞典を使って、漢字の成り立ちを確認する。 4 4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ) 【態】 ・進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
<p><b>4月 春の空</b> 1時間(書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(3)イ)</p>	<p>1 1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP45の春に関わる言葉、俳句を参考にして、春らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【態】 ・「書くこと」「読むこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)イ)</p>
<p><b>5月 話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう</b> きいて、きいて、きいてみよう 6時間(話・聞⑥) ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)イ) ○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ■インタビューをし、報告する。 ☆インタビューを行い、報告する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆インタビューの録音・録画(ICT活用)</p>	<p>1 1 学習の見直しをもつ。 ・生活の中で、どのような「きく」があるのかを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 2 インタビューの順番を決め、話題を考える。 ・話し手との関わりを思い出ししながら、きいてみたい話題を幾つか挙げる。 ・その人の人柄を引き出せそうな話題を考え、質問を挙げる。 3 3 インタビューのためのメモを用意する。 ・絞った話題について、質問に対する答えを予想し、インタビューのためのメモを書く。 4 4 活動のしかたや気をつける点を確認する。 ・P48-49を読み、きき手、話し手、記録者の役割やインタビューの具体的なやり取り、報告のしかたなどについて、全体で確認する。 4~5 5 役割を交代しながらインタビューをする。 6 6 記録したメモを基に報告の準備をする。 7 7 記録者がインタビューの内容について報告を行い、報告を聞いて気づいたことを伝え合う。 6 8 「きくこと」について考えたことを伝え合う。 ・役割の違いによって、きき方がどのように違うのかについて話し合う。 9 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)イ) 【態】 ・粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見直しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。</p>
<p><b>5月 文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう</b></p>		

～ 6月	見立てる 言葉の意味が分かること 【情報】原因と結果 7時間 (知・技①、読⑥) ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■考えたことを伝え合う。 ☆外国語や異文化への興味をもち、理解する態度を養う題材(外国語、道徳、総合的な学習の時間)	1～2	1 学習の見通しをもつ。 ・P51を見て、文化や言葉ともの見方の関わりについて考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「見立てる」を読み、事例や文章構成に着目して筆者の主張を見つけて、自分の考えを伝え合う。 3 「言葉の意味が分かること」を読み、筆者の主張を見つめる。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習のめあてを確かめる。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて、各段落の内容を捉え、文章構成と内容を確かめる。 4 文章の要旨を150字以内でまとめる。 5 文章構成や事例の挙げ方、原因と結果の関係、事例と筆者の考えの結び付きなどを確かめる。 ・P63「原因と結果」、P60-61「言葉に着目しよう」を参考にする。 6 筆者の考えや、事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。 ・共感できる点や疑問に思う点に変化があったかを考える。 7 7 自分の考えを伝え合う。 ・筆者の考えに触れながら、文章から読み取れる筆者の考えに対する自分の考えを話す。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。((C1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((C1)オ) 【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
6月	敬語 2時間 (知・技②) ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ☆礼儀や言葉遣いが、円滑な人とのつながりをつくることについて考える題材(道徳)	1	1 敬語について知る。 ・「問いをもと」を基に、言葉遣いについて自分なりの考えとその理由をもつ。 2 P65の設問1に取り組む。 ・どのような表現に変えるとよいかを考え、理由とともにノートに書いて、話し 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ) 【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。
6月	表現を工夫して、俳句を作ろう 日常を十七音で 3時間 (書③) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けすることができる。(知・技(1)ウ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■俳句を作る。	1	1 学習の見通しをもつ。 ・P66の二つの俳句を読み、「問いをもと」に沿って感想を話し合う。 ・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 俳句を作る材料を集める。 ・P67のメモの例を参考にして、生活の中で気づいたことや、驚いたこと、心が動いたことなどを短い文で書き留める。 3 材料を基に、5・7・5の17音の形にする。 4 P68を参考に、表現の工夫のしかたを確かめる。 5 作った俳句の表現を工夫する。 6 作った俳句を友達と読み合い、言葉や表現を工夫したところや、友達の俳句への感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けしている。((1)ウ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) 【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
6月	漢字の広場① 1時間 (書①) ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1	1 P70に掲示された言葉を使いながら、図書館の人になったつもりで、本の場所や図書館の使い方などについて説明する文や文章を書く。 2 書いた文や文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文や文章を読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認す	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)
6月	古典の世界(一) 2時間 (知・技②) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■古文を音読する。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 古典の世界を想像して、関心をもつ。 ・P71の絵や文章から気づいたことを話し合う。 2 二次元コードの音声を参考に、四つの古典作品の冒頭を音読し、現代語訳や解説から内容の大体を知る。 2 3 作品を読んで感じたことや考えたことなどをノートに書き、伝え合う。 4 四つの作品を再度読んだり、子ども向けの古典作品集などを読んだりする。 ・「この本、読もう」で紹介されている本も参考にするとよい。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。((3)イ) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
6月	【情報】目的に応じて引用するとき 2時間 (書②) ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■引用カードを書く。 ☆レポート等を作成する際に、目的に応じて適切な引用を行う活動(理科、社会、総合的な学習の時間)	1～2	1 P76上段を見て、自分にも似た体験がないか想起して紹介し合い、目的に応じた引用の重要性について考えることを押さえる。 2 P76下段を読んで、情報を書き留めるときに気をつけることを確認する。 3 P77の文章と「山下さんの引用カード」を読んで、気づいたことを話し合う。 4 「山下さんの引用カード」を参考に、「手洗いの際、蛇口を閉めることの大切さを説明する文章を書く場合」という設定で、引用カードを書く。 5 どのような引用カードを書いたのか、伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) 【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書くようとしている。
6月 ～ 7月	伝えたいことを整理して、報告しよう みんなが使いやすいデザイン 8時間 (書③) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集	1	1 学習の見通しをもつ。 ・ユニバーサルデザインについて、知っていることを紹介し合う。 ・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝

<p>めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることかできる。(思・判・表B(1)ア) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■報告する文章を書く。 ☆よりよい社会や学校生活をつくろうと考える題材(道徳、総合的な学習の時間) ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する活動(理科、社会、総合的な学習の時間) ☆インターネットによる情報収集(ICT活用)</p>	<p>2 3~4 5 6 7 8</p>	<p>2 調べたいことを見つめる。 ・P79を参考にして、家や町の中にあるものから、誰もが使いやすいように工夫されているものを探す。 ・見つけたものから、特に調べたいものを選ぶ。 3~4 調べ方を選んで取材し、集めた情報を整理する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P76「目的に応じて引用するとき」の学習を参考にして、調べたことを記録する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考にしながら、集めた情報を整理する。 5 4 報告する文章の構成を考える。 ・P82の作例や二次元コードから見られる作例(全文)を参考にして、文章の構成を考える。 6 5 報告する文章の下書きを書く。 ・小見出しを立てるなどして、まとまりが分かるように書く。 ・本などから引用する場合は、他と区別して書く。 ・まともは、それまでに述べてきたことと対応させる。 7 6 下書きを読み直して、清書する。 7 書いた文章を読み合せて感想を伝え合う。 ・どんなところがよかったか、そう感じた理由とともに、感想を伝え合う。 8 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。</p>
<p>7月 同じ読み方の漢字 2時間(知・技②) ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	<p>1 2</p>	<p>1 P84上段の問題に取り組み、同じ訓をもつ漢字でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 2 P84の設問1・2に取り組む。 3 P85上段を読み、同じ音をもつ熟語でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 4 P85の設問3・4に取り組む。 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。</p>
<p>7月 夏の夜 1時間(書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(3)イ)</p>	<p>1</p>	<p>1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP87の夏に関する言葉、俳句を参考にして、夏らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)イ ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア 【態】「書きまじり」は、目的や意図に応じて、感じたことを表現する。</p>
<p>7月 本は友達 作家で広げるわたしたちの読書 モモ 5時間(読⑤) ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■本の魅力を伝え合う。 ☆作家を意識して選んだ本を読む活動(図書館活用)</p>	<p>1 2~4 5</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・普段、どのように本を探しているかを想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分の本の選び方について、友達と話す。 ・さまざまな観点があつてよいが、作家に着目した発言が出るようにしたい。 3 「モモ」を読んで、感想を伝え合う。 4 これから読みたい作家を決めて、その作家の本を探して読む。 5 P91の作例を参考に「しようかいカード」を書き、本を紹介し合う。 6 自分の選んだ作家や作品の魅力を紹介し合い、気づいたことを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。</p>	<p>【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。</p>
<p>9月 かぼちゃのつるが われは草なり 2時間(読②) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ■考えたことを伝え合う。</p>	<p>1 2</p>	<p>1 二つの詩を音読する。 ・繰り返しの表現に着目しながら読む。 2 「かぼちゃのつるが」を読み、繰り返しの表現により、どのような様子が想像されるかについて、話し合う。 ・「はい上がり」「葉をひろげ」が、どう繰り返され、何を表しているかを考える。 3 「われは草なり」を読み、「われは草なり」とは、どのようなことを表しているかについて考える。 ・繰り返しの表現が、各連の中で、他の表現とどう結び付いているかについて話し合う。 4 二つの詩を読んで、繰り返しの表現があることの効果について、考えをまとめ 5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>9月 どちらを選びますか 2時間(話・聞②) ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ■立場に分かれて話し合う。 ☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする活動(特別活動)</p>	<p>1~2</p>	<p>1 P104-105を読み、学習の進め方を確認する。 2 海を薦めるチーム(二人)と、山を薦めるチーム(二人)に分かれて、チームごとに薦める理由を考えてノートに書き出す。 3 話し合いを行う。 ・それぞれのチームが意見を言った後、質疑応答をして、互いの考えの違いをはっきりさせる。 ・各チームは、質疑応答を踏まえて考えを整理し、改めて意見を述べる。 ・先生役は、説得力があったチームを判定する。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。</p>
<p>9月 新聞を読もう 2時間(読②) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○重宝と成相 登目カドンの関係を句法を基に相々 文章全体の構成を捉え</p>	<p>1</p>	<p>1 新聞の1面の構成について確認する。 ・実際の新聞を用意し、構成を確認しながら、気づいたことや疑問点などをノートに書く。 ・新聞のそれぞれの面には、どのような分野の記事が書かれているかを確認する。 2 P108-109の二つの記事を読み、どんな違いがあるか、どうして違うのかを考え、ノートに書く。</p>	<p>【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、重要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)</p>

	<p>○事実と虚構、虚構と事実の区別を明確に記し、人々の感情や態度について要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>■新聞記事を読む。</p> <p>☆新聞記事等による情報収集(社会、総合的な学習の時間)</p>	2	<p>3 二つの記事を比べて考えたことについて話し合う。</p> <p>4 新聞の中から自分が興味をもったニュースの一つを選び、そのニュースについて、複数の記事を読み比べ、思ったことや考えたことをノートに書く。</p> <p>5 ノートに書いたことを基に、自分の選んだニュースや記事について紹介し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【能】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。</p>
9月	<p>文章に説得力をもたせるには</p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>○文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>■考えたことを伝え合う。</p>	1	<p>1 意見文における「主張」と「根拠」について知る。</p> <p>2 P110-111の意見文の例を読み、「主張」と「根拠」がどのように書かれているかを確かめる。</p> <p>・「予想される反論」と「反論に対する考え」があるのとは、主張の伝わり方がどのように変わるかを考える。</p> <p>・「まとめ」で「主張」と同じ内容が繰り返されていることの効果を考える。</p>	<p>【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【能】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見直しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>
9月	<p>漢字の広場②</p> <p>1時間(書①)</p> <p>◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	1	<p>1 P112に提示された言葉を使いながら、作家になったつもりで、登山家の半生を文章に書く。</p> <p>2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。</p> <p>3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認す</p>	<p>【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)</p>
9月 ～ 10月	<p>物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう</p> <p>たずねびと</p> <p>6時間(読⑥)</p> <p>◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)</p> <p>■考えたことを伝え合う。</p> <p>☆戦争や平和について考えさせるとともに、平和を願う心を養う題材(道徳)</p> <p>☆紹介された本を選んで読む活動(図書館活用)</p>	1	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <p>・P113を見て、物語の内容を想像する。</p> <p>・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(知・技(1)ク)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)</p> <p>【能】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見直しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>
		2	<p>2 本文を読んで、「綾」の心情の変化を捉える。</p> <p>・それぞれの場面で「綾」が出会ったものや、登場人物を確かめる。</p> <p>・P128「心情の変化をとらえる」を参考に、行動や会話、心情や情景を表す表現に着目して、「綾」の心情の変化を捉える。</p>	
		3～4	<p>3 P129「言葉に着目しよう」を参考にし、物語の全体像を想像する。</p> <p>・「きれいな川」や「ただの名前」が、「綾」にとってどんなものになら変わったかを考える。</p> <p>・原爆や戦争に対する「綾」の見方がどう変わったかを考える。</p> <p>・「綾」が訪ねた場所や出会った人が、それぞれ「綾」に何を伝える役割をしていたかについて考える。</p>	
		5	<p>4 自分の思いや考えにどのような変化があったかについて、ノートにまとめる。</p> <p>・P129「考えをまとめる例」を参考にする。</p>	
		6	<p>5 まとめたことを友達と伝え合う。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p> <p>・単元で身につけた力をいかして、P260「チェロの木」を読むことを確かめる。</p> <p>・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	
10月	<p>漢字の広場③</p> <p>1時間(書①)</p> <p>◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	1	<p>1 P131に提示された言葉を使いながら、各教科での学習や学校生活について、学級日誌に記録するように文章を書く。</p> <p>2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。</p> <p>3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認す</p>	<p>【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)</p>
10月	<p>方言と共通語</p> <p>2時間(知・技②)</p> <p>◎共通語と方言との違いを理解することができる。(知・技(3)ウ)</p>	1～2	<p>1 方言と共通語について知る。</p> <p>・「問いをもと」を基に、言葉の中には方言があることに気づく。</p> <p>・「方言分布図」を参照し、自分の住んでいる地方で、塩の味を表す言葉としてどう言うか、話し合う。</p> <p>2 方言と共通語の特徴と必要性を確かめる。</p> <p>3 設問に取り組む。</p> <p>・自分の住む地域の方言を知る。</p> <p>・「たずねびと」の方言の効果について話し合う。</p> <p>・方言を使った場合と共通語を使った場合のそれぞれのよさを考える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・「いかそう」を読み、これからの生活にいかす視点をもつ。</p>	<p>【知・技】共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ)</p> <p>【能】進んで方言と共通語の違いに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
10月	<p>秋の夕</p> <p>1時間(書①)</p> <p>◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができ</p>	1	<p>1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。</p> <p>2 「枕草子」やP135の秋に関わる言葉、俳句を参考に、秋らしいものや様子を文章に書く。</p> <p>3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)</p> <p>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表</p>
10月	<p>たがいの立場を明確にして、話し合おう</p> <p>よりよい学校生活のために</p> <p>【コラム】意見が対立したときには</p> <p>6時間(話・関⑥)</p> <p>◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表</p>	1	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <p>・学校生活の中でこうなると思うことについて、考えを出し合う。</p> <p>・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ)</p> <p>・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討して</p>
		2	<p>2 学校生活の中から、議題を決める。</p> <p>・新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を見つけて、ノートに書く。</p> <p>・書いた課題を基にクラスで一つの課題を選び、議題を決める。</p>	

<p>①互いの立場や意図を明確にしなが</p> <p>A(1)ア)</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にしなが</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にしなが</p> <p>◎思考に関わる語句の量を増し、話</p> <p>●身の回りの問題について、それぞ</p> <p>☆身近な問題に気づき、仲間と共</p> <p>☆ICT端末の機能を使って、出て</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>8</p>	<p>◎互いの立場や意図を明確にしなが</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にしなが</p> <p>◎思考に関わる語句の量を増し、話</p> <p>●身の回りの問題について、それぞ</p> <p>☆身近な問題に気づき、仲間と共</p> <p>☆ICT端末の機能を使って、出て</p>
<p>11月 浦島太郎——「御伽草子」より</p> <p>1時間(知・技①)</p> <p>◎古典について解説した文章を読</p> <p>◎親しみやすい古文の文章を音読</p> <p>◎時間の経過による言葉の変化に</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>【知・技】</p> <p>・親しみやすい古文の文章を音読</p> <p>・古典について解説した文章を読</p> <p>・時間の経過による言葉の変化に</p>
<p>11月 和語・漢語・外来語</p> <p>2時間(知・技②)</p> <p>◎語句の由来などに関心をもつと</p> <p>◎語感や言葉の使い方に対する感</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>5</p>	<p>【知・技】</p> <p>・語感や言葉の使い方に対する感</p> <p>・語句の由来などに関心をもつと</p> <p>【能】進んで和語・漢語・外来語</p>
<p>11月 資料を用いた文章の効果を考</p> <p>固有種が教えてくれること</p> <p>自然環境を守るために</p> <p>【コラム】統計資料の読み方</p> <p>10時間(書⑤、読⑤)</p> <p>◎原因と結果など情報と情報との</p> <p>◎引用したり、図表やグラフを用</p> <p>◎目的に応じて、文章と図表など</p> <p>◎事実と感想、意見などとの関係</p> <p>●筆者の説明のしかたの工夫につ</p> <p>☆図表・グラフ等と文章を関連さ</p> <p>☆理由や根拠を明確にしなが</p> <p>☆固有種や環境について目を向</p> <p>☆統計資料がある本を読む活動</p> <p>☆グラフや表の作成(ICT活用)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>9</p>	<p>【知・技】</p> <p>・原因と結果など情報と情報との</p> <p>・日常的に読書に親しみ、読書が</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、引用し</p> <p>・「読むこと」において、目的に</p> <p>【能】粘り強く文章と図表などを</p>



		<p>10 統計資料を集め、自分の考えをもつ。 ・P161の二次元コードから、環境問題に関するさまざまな統計資料を見つめる。 ・統計資料とそこから分かることを紹介し合う。 ・P165「統計資料の読み方」を読んで参考にする。</p> <p>11 自然環境について、自分の考えをもつ。 ・P162-163の作例を読み、自分の書く文章の見直しをもつ。 ・自分の考えの根拠に適した統計資料を決める。</p> <p>7 12 「初め」「中」「終わり」の構成で、書くことを整理する。 ・付箋紙やカードなどを使って、何を、どの順序で書くのかを決める。</p> <p>8~9 13 グラフや表を用いて、考えを書く。 ・自分の考えに合った資料を用いる。 ・P162「グラフや表を用いて書くときは」、P163「グラフや表を用いて書くときの言葉」を読んで、説得力のある文章になるように工夫する。 ・書き上げたら読み返して、説得力のある文章になっているか確かめる。</p> <p>10 14 書いた文章を友達と読み合い、説得力のあるところについて、意見や感想を交流 15 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	
11月	<p>カンジエ博士の暗号解読 2時間 (知・技②) ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	<p>1~2 1 P166を読み、暗号の解読のしかたを確かめる。 ・同音の漢字が解読の鍵であることに気づく。 ・漢字辞典や国語辞典を使って、漢字を確かめる。 2 設問に取り組み、グループで確かめ合う。 3 暗号文を作り、グループで解き合う。</p>	<p>【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態】進んで漢字の読み方に関心を持ち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。</p>
12月	<p>古典の世界(二) 1時間 (知・技①) ◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■漢文を音読する。 ☆国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛着を養う題材</p>	<p>1 1 教師の範読(朗読CD、デジタル教科書、二次元コードの音声)を聞き、読み方やリズムを知る。 2 「論語」や漢詩「春曉」を声に出して読む。 ・漢文特有の言い回しやリズムを味わう。 ・日本語訳(大意)を参考にして意味を捉え、問答の場面や、漢詩の情景を想像する。 3 グループで交互に音読を聞き合いながら、漢文特有の言い回しやリズムを楽しむ</p>	<p>【知・技】 ・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。</p>
12月	<p>漢字の広場④ 1時間 (書①) ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。</p>	<p>1 P170に提示された言葉(県名)を使いながら、それぞれのまですりに入る文を書く。 2 書いた文を読み返すなどして、構成などを考える。 3 書いた文を見せ合って紹介し合うとともに、示された漢字を確認する。 ・クラスやグループで都道府県すごろくを完成させ、遊んで楽しむ中で、漢字に親しむ。</p>	<p>【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいか</p>
12月	<p>伝記を読み、自分の生き方について考えよう あなたは、どう考える—アンパンマンの勇氣 5時間 (読⑤) ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。 ☆自分の郷土に目を向けさせる題材(総合的な学習の時間) ☆伝記の選書(図書館活用)</p>	<p>1 1 学習の見直しをもつ。 ・P171を見て、あなたは、どう考える—アンパンマンの勇氣について、知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習の見直しをもつ。 ・P181「この本、読もう」も参考にしながら、興味のある伝記を選ぶ。 2~3 2 伝記に取り上げられている出来事確かめる。 ・P182「伝記の表現」から、特色を知る。 ・それぞれの出来事で「たかし」がしたことや考えたこと、人生における意味を確かめる。 3 考え方に着目して、「たかし」の人物像をまとめる。 4 「たかし」の行動や考え方について、自分の考えを書く。 5 選んで読んだ本(伝記)について、考えたことを200字程度で書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。</p>
12月	<p>意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう あなたは、どう考える 6時間 (書⑥) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけすることができる。(思・判・表B(1)カ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■意見文を書く。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動(社会、総合的な学習の時間) ☆意見や理由と文章構成を説明する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆ICT端末に文章構成の表を用意し、付箋機能を使い、文章の構成を考える活動(ICT活用)</p>	<p>1 1 学習の見直しをもつ。 ・他の人の意見を読んで共感したり、意見をもったりした経験について発表する。 2 2 自分の関心のあることから題材を決め、主張を考える。 ・P187の作例を読み、よいところを見つける。 ・P185の投書例や「題材の例」を参考に、題材を集めて、その中から決める。 3 3 自分の考えを見直したり、グループで見せ合ったりして、他の立場から自分の考えを見直す。 ・主張や理由、根拠について、説得力があると感じたところや補ったほうがよいところを友達と伝え合う。 ・友達の意見を参考に、自分の主張に対する反論を予想する。 ・必要に応じて、実際にあった出来事を思い出したり、図書館やインターネットで情報を調べたりする。 4~5 4 文章の構成を考える。 ・P186の倉田さんの例を参考に、集めた情報から、どれをどの順番で取り上げるかを決める。 ・P186「学びをいかそう」を参考に、説得力を意識した文章構成になるように確かめる。</p>	<p>【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもって意見文を書くこととしている。</p>

		<p>5 構成を基に、意見文を書く。 ・P187「考えを表す言葉」を参考にする。</p> <p>6 書いた文章を読み返して、文章を推敲する。</p> <p>7 意見文を読んで感想を伝え合い、文章のよさを見つける。 ・P188の感想の例や質問の例を参考にする。 ・P188「感想や質問を伝え合うときは」を参考にして、質問や感想で意見文のよさを引き出したり、気づいたりできるようにする。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>		
12月	<p>冬の朝 1時間 (書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表C(1)イ)</p>	1	<p>1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 ・P191の冬に関わる言葉、俳句を参考にして、冬らしいものや様子を文章に書く。</p> <p>2 「枕草子」やP191の冬に関わる言葉、俳句を参考にして、冬らしいものや様子を文章に書く。</p> <p>3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。 ・自分が書いた「春夏秋冬らしいものや様子」を見直して、振り返ることができるように。</p>	<p>【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【能】積極的に言葉の響きやリズムに親しむ。学習課題に沿って冬らしいもの</p>
1月	<p>好きな詩のよさを伝えよう 2時間 (書①、読①) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩を紹介する文章を書く。 ☆詩集を読む活動 (図書館利用)</p>	1	<p>1 教科書にある詩を繰り返し音読し、好きなところや気づいたことなどについて、ノートに書く。</p> <p>2 それぞれの詩の工夫を確かめる。 ・「言葉に着目しよう」を参考に考え、伝え合う。</p> <p>3 教科書にある詩からお気に入りの詩を選び、どこがいいのかをまとめて書く。</p> <p>4 好きな詩を紹介するカードを書く。 ・これまでに読んだ詩や詩集などからお気に入りの詩を選び、表現のよさを考える。</p> <p>5 カードを基にして詩を紹介し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書の幅を広げる。</p>	<p>【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【能】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。</p>
1月	<p>言葉でスケッチ 2時間 (書②) ◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ■情景が伝わるように書く。</p>	1	<p>1 メモの書き方をつかむ。 ・P194「観点にそってメモに書き出そう。」を参考にする。 ・教材にある子どもの写真を基に、観点を作ってメモを作成する。 ・メモを作成して、観点に沿って整理する。</p> <p>2 P195「例」のよいところを見つけて、情景が伝わってくる表現の工夫のしかたを確かめる。</p> <p>3 自分が選んだ写真を、言葉で表現する。</p> <p>4 完成した文章を読み合い、よいところを伝え合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元で活用することを確かめる。</p>	<p>【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【能】粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。</p>
1月	<p>熟語の読み方 2時間 (知・技②) ◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)</p>	1	<p>1 P196上段の熟語は、それぞれの漢字を音読みと訓読みのどちらで読んでいるかを考える。</p> <p>2 重箱読みと湯桶読みの熟語について理解する。</p> <p>3 設問1に取り組み、音読みと訓読みの組み合わせになっている熟語を探す。 ・重箱読みと湯桶読みに分ける。</p> <p>4 P197を読んで、特別な読み方をしている熟語があることを知る。</p> <p>5 設問2に取り組み、熟語の読み方を考える。</p> <p>6 特別な読み方をしている熟語を見つけてクイズにして、紹介し合う。</p>	<p>【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ) 【能】進んで熟語の読み方に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
1月	<p>漢字の広場⑤ 1時間 (書①) ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。</p>	1	<p>1 P198に提示された言葉とつなぎ言葉を使って、駅からおばあちゃんの家までの道順を案内する文章を書く。</p> <p>2 書いた文章を読み返すなどして、つなぎ言葉の使い方や構成などを考える。</p> <p>3 書いた文章を見せ合い、違う道順や違う表現で書いた友達と紹介し合うとともに、示された漢字を確認する。</p>	<p>【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【能】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいか</p>
1月	<p>事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう。 想像力のスイッチを入れよう 6時間 (読⑥) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■メディアとの関わりについて考えを伝え合う。 ☆メディアとの関わり方について理解し、考えをもつ題材 (総合的な学習の時間、日常生活)</p>	1	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P199を見て、「想像力のスイッチ」という言葉から連想することを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 筆者が伝えようとしていることを捉える。 ・文章のまとまりごとに述べられていることをまとめて、概略をつかむ。</p> <p>3 筆者が挙げた事例と、それぞれの事例に対する筆者の意見をまとめる。</p> <p>4 事例を挙げて説明することの効果について話し合う。</p> <p>5 筆者が考える「想像力のスイッチ」について、まとめる。 ・なぜその表現にしたのかを考える。 ・表現に対する自分の意見をもつ。</p> <p>6 P206「もつと読もう」を参考にして、自分の経験を想起して、メディアとの関わり方についての自分の考えを文章に書く。</p> <p>7 書いたものを読み合い、互いの考え方の類似点や相違点を見つけて伝え合う。 ・取り入れた友達のことを明らかにする。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【能】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見直しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。</p>

<p>1月 複合語 2時間 (知・技②) ◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p>	<p>1 1 複合語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉と言葉が結び付いて、新しい意味をもつことに気づく。 2 複合語の種類を確かめる。 ・複合語の組み合わせ方を理解して、設問1に取り組む。 2 3 複合語の特徴を確かめる。 ・長い複合語や略語について理解する。 ・発音や音の高低が変わる複合語があることを確かめる。 ・設問2に取り組む。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。</p>	<p>【知・技】語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【能】進んで複合語の構成や変化について関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
<p>2月 言葉について考えよう 言葉を使い分けよう 3時間 (知・技①、書②) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■手紙を書く。</p>	<p>1 1 学習の見通しをもつ。 ・P213を読み、「問いをもとう」を基にどんなことを考えていくかの見通しをもつ。 2 相手に応じた言葉の選び方について考える。 ・「お知らせをどう書き換えればいいか」について話し合う。 ・P214「言葉を選ぶときは」を読んで、選び方について確認する。 2 3 相手や場に応じた言い方について考える。 ・「お知らせ」をどう書き換えればいいかについて話し合う。 ・P215「言い方を変えるときは」を読んで、よりよい言い方について確認する。 4 P215の課題に取り組む。 ・相手に合わせて言葉を選び、相手や場に応じた言い方をすることの大切さを確認する。 3 5 言葉や表現に気をつけて手紙の文面を考える。 ・友達と評価し合う。 6 学習を振り返る。 ・これからの生活や学習にいかす視点をもつ。</p>	<p>【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【能】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書くようとしている。</p>
<p>2月 読む人を意識して構成を考え、物語を書こう もう一つの物語 6時間 (書⑥) ◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ■別の物語に書き換える。</p>	<p>1 1 学習の見通しをもつ。 ・別の展開について考えてみたい物語を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 2 作例を基に、「何を」「どのように」書き換えているかをつかむ。 3 書き換えたい物語を選び、変える部分を考える。 ・P218「変える部分を考えるときは」を読み、変え方の参考にする。 ・変える部分を友達と紹介し合って、書き換える物語と、書き換える部分について決める。 3 4 読む人を意識して、物語の構成を考える。 ・P219「物語の基本的な構成」「塩谷さんの構成メモ」を参考に、構成メモを作成する。 ・塩谷さんの構成の工夫を見つけて、読む人にどう楽しんでもらおうとしているかを予想する。 ・P219「物語の構成を考えるときは」を読んで、構成を考える参考にする。 4 5 表現を工夫して、物語の下書きをする。 ・読む人にどう感じてほしいかを意識して、物語の「どこに」「何を」書けばよいかを考える。 ・物語の場面を想像して、会話文や登場人物の様子、情景などを工夫して書き表す。 5 6 物語を清書する。 ・P220「学びをいかそう」を参考に、表現を工夫する。 ・推敲して、仕上げる。 6 7 読み合って、感想を伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【能】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書こうとしている。</p>
<p>2月～3月 事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう 「子ども未来科」で何をする 6時間 (話・聞⑥) ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■提案するスピーチを行う。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動(社会、総合的な学習の時間) ☆意見や理由と根拠を説明する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆練習時のスピーチの録音・録画(ICT活用)</p>	<p>1 1 学習の見通しをもつ。 ・自分が学んでみたいことを考え、発表し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P225「山下さんのスピーチ」を参考に、「何を」「どのように」に伝えるスピーチなのかの見通しをもつ。 3 考えてみたいテーマを決める。 ・どんな課題があるかを想起して、自分が考えたいテーマを決める。 ・課題にしようとしているテーマについて、グループで情報交換する。 3 4 テーマから課題を考え、情報を集める。 ・自分が決めたテーマについての課題を挙げて、「子ども未来科」で学べそうなことを考える。 ・P223「情報を集めるときは」を参考に、説得力を上げるための情報を集める。 4 5 スピーチの構成を考える。 ・内容や話す順序を考え、スピーチメモを作る。 ・提示する資料を作る。 ・P224「構成を考えるときは」「資料を作るときは」を読んで、参考にする。</p>	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ) ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) 【能】粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。</p>

		5	6	スピーチメモを基にして、練習をする。 ・P225「山下さんのスピーチ」や二次元コードを参考に、効果的な言葉の選び方や話し方、資料の示し方などを工夫する。	
		6	7	スピーチをする。 ・動画に撮っておき、見返す。	
			8	感想を伝え合う。 ・話の構成、話し方の両面から、友達のスピーチのよかったところを伝え合う。	
			9	学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
3月	登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう 大造じいさんとガン 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章を音読したり朗読したりすることができる。（知・技(1)ケ） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の魅力伝える文章を書く。 ■物語の魅力が表れているところを朗読する。	1 2～3 4 5～6	1 2 3 4 5 6 7	1 学習の見直しをもつ。 ・P227を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「残雪」に対する「大造じいさん」の心情と、その変化に着目して、物語の内容を捉える。 ・P246「言葉に着目しよう」を参考に、「大造じいさん」の心情を表す情景描写の効果について考える。 3 物語の山場について考える。 ・「大造じいさん」の心情が大きく変わるところを探す。 4 読み深める視点を選んで、物語の魅力を見つけて自分の言葉でまとめる。 ・P247「選んで読み深めよう」を参考にする。 ・視点が同じ人どうしや違う人どうしで考えを伝え合い、考えを深める。 5 物語の魅力とそう考える理由をまとめる。 ・物語の魅力がよく表れている場面や文を選んで、そう思う理由を書き表す。 6 選んだ場面や文を朗読で表現する。 ・物語の魅力について書いた文章や朗読について、グループで紹介し合い、考えを比べる。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・文章を音読したり朗読したりしている。（(1)ケ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見直しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1	1 2 3	1 P249に提示された言葉を使いながら、新聞記者になったつもりで、出来事を報道する文章を書く。 2 書いた文章を読み返すなどして、構成などを考える。 3 書いた文章を見せ合い、交流するとともに、示された漢字を確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
3月	五年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。	1	1 2 3	1 1年間の国語学習を振り返る。 ・P252『「たいせつ」のまとめ』を読んで、領域ごとに自分が大切だと思ったことを書き加える。 ・学習で使ったノートやワークシートなどを見返して、それぞれの単元、時間で学んだことを想起する。 2 「自分自身について言葉の力」と「その力のいかし方」について、自分の考えをまとめて書く。 3 書いた考えを友達と紹介し合う。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア） 【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。